

第4回館山市議会定例会会議録

(第2号)

1 平成2年12月17日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 脇田 安保	2番 永井 龍平
3番 田沢 勝信	4番 庄司二三男
5番 岩村 勝弘	6番 山崎 雅己
7番 生稲 隆	8番 鈴木 勝美
9番 山口 康雄	10番 鈴木 忠夫
11番 神田 守隆	12番 榎本 春光
13番 山中金治郎	15番 横溝 功
16番 石井 昌治	17番 石井 謀
18番 日下 君敏	19番 川名 正二
20番 福原 勤	22番 黒川 平治
23番 流山源次郎	25番 渡辺 昭夫
26番 近藤 好雄	27番 林 豊
28番 飯田 義男	

1 欠席議員 1名

14番 小宮 利夫

1 出席説明員

市長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収入役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総務部長 二通 英雄	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 安西 良一	水道課長 鈴木 信一
教育委員会 正木 高嗣	教育委員会 福原 修

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄	事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 加藤 浩一	

1 議事日程（第2号）

平成2年12月17日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（渡辺昭夫君） 本日の出席議員数24名、これより第4回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（渡辺昭夫君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の12月12日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

2番議員永井龍平君。御登壇願います。

（2番議員永井龍平君登壇）

◎2番（永井龍平君） 半澤前市長におかれましては館山市発展のために大変な御尽力をなされました。その功績は市の歴史にさん然と輝きわたることでしょう。ここに深く敬意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

御質問をいたします。庄司市長就任第1回の定例市議会に当たり、庄司市政に対する期待は館山市民がひとしく大いなる関心を持って見守っていることと思います。したがって、市長の公約並びに施政方針に示されている重点政策は今後の館山市の将来に対して極めて重要な指針であり、これが着実に

具体化されていくかが全市民の願いであり、市政執行者の責務でもあります。そして、市長は基本的な政策のメーンスローガンとして「明るく希望に満ちた活力ある館山づくり、発展と調和ある明日のふるさとづくり」を目指しております。どうか市民の期待を行政の上に示されて、市長の公約遂行に精進されますことを願うものでございます。

市長はさきに述べましたメーンスローガンを基本として4本の柱を策定されました。それは、1、「行政の推進と改革」とした上で、確かな政治、明るい政治を展開し、活力ある館山。2、「自治」では、適正にして徹底した調和を求め、未来に輝く館山。3、「心と体」では、優しさと思いやりのある人づくり、生きがいのある館山。4、「産業と経済」では、まぶしい風土に魅力的なウォーターフロント都市、観光の館山としております。私はこの施策の中で、3本目の「心と体」、優しさと思いやりの人づくり、生きがいのある館山——が最も重要だと考えるものであります。その理由として、行政、自治、産業経済、教育、いずれをとりましてもすべて人間の心と体がつくり出すものであり、その心と体の善悪によって市民の生活の環境が決定されてしまうわけであります。したがって、この優しさと思いやりのある人材づくりは最も重要な施策と考えるものであります。それは、人口が増加してまちは繁栄と興隆があるという証左であり、逆に人口の減少していくまちはさまざまな面で陰り、衰退を見せていることが言え、人口の増減はそのまちの経済、社会、文化のバロメーター、つまり市政の総合的指数となる基本的な問題と言えましょう。

故半澤前市長の退任のあいさつの言葉の中でこのように述べております。「市民の信任を得て就任される新市長は、確立された既定路線に乗って着実に諸施策を実施し、市民がここに生まれ育ち、生活することに人生の喜びを感じるような活力のある生活文化の薫り高い都市実現に大きく歩を進めることを期待し、議会における最後のごあいさつといたしたいと存じます」とあいさつされました。ここに示された「市民がここに生まれ育ち、生活することに人生の喜びを感じるような活力のある生活文化の薫り高い都市実現に」という言葉、まさに館山市における人口問題への取り組みを示唆しているも

のと私は確信するものであります。

そこで御質問いたしますが、まちの経済、社会の指標となりますこの人口が当市では減少しておりますが、市長さんはこの対策をどのようにお考えなのかお伺いをするものであります。

先ほど発表になりました平成2年国勢調査の県速報値によりますと、千葉県の総人口は555万5,467人で、前回の昭和60年調査より40万7,004人増加し、その増加率は7.9%であり、全国一だった前回の8.7%には及ばなかったものの引き続き高水準を維持し、中でも印旛郡八街町、また君津郡袖ヶ浦町は人口がそれぞれ5万人を突破し、市制施行が確実となりました。それに対して県下28市中、富津市が1,900人、3.3%、銚子市が2,745人、3.1%、館山市が1,461人、2.6%、鴨川市が576人、1.8%、佐原市が237人の0.5%であり、この5市のみが減少をし、残り23市は増加をしており、28市の平均は7.4%の増加となっております。

当市におきましては、昭和50年5万6,139人、昭和55年5万6,257人、昭和60年5万6,035人、平成2年5万4,574人ですが、これを昭和50年と平成2年を比較いたしますと1,562人の減少で、マイナスの2.8%で、昭和50年から昭和60年までは104人の増減の変動であります。昭和60年から平成2年のこの5年間では何と1,461人、2.6%もの減少となっております。この減少は、当市の抱える袋小路性、道路、交通、水等の宿命的な問題に加え、さらに出生率の低下が考えられます。特に、昭和60年から平成2年のこの5年間での激減は大変な数でございますが、この人口問題について市長さんはどのような対策をお考えなのかお尋ねをいたします。

次に、少子化社会における出生率の低下の問題についてお伺いをいたします。ことし6月に発表されました厚生省の平成元年人口動態統計で、1人の女性が生涯に産む子供の数の平均が過去最低の1.57人というデータが発表されました。平成元年に生まれた赤ちゃんは前年より6万7,000人少ない124万6,000人で、出生数、出生率ともに明治32年に統計をとり始めて以来、昭和41年、ひのえうまの1.58名より少ない史上最低の記録となったわけでございます。子供が少なくなる社会というのは高齢化社会への移行が加速するこ

とになり、このまま出生率が低下すると、10年後には子供人口14歳以下は高齢者人口65歳以上に追い抜かれ、日本の高齢化社会の一層の促進と人口の確実な減少を招くことが指摘されております。この子供の減少が与える社会的、経済的影響としては、年金、医療など高齢者扶養負担の増大、若年労働力の減少による深刻な労働力不足、経済社会全体の活力の低下などが心配されます。その出生率の低下の原因としては、結婚、出産年齢の女子人口に占める有配偶者の割合の低下により、結婚しない女性もしくは結婚に魅力を感じない女性の増加、しかも結婚をしている女性の中でも育児よりも仕事の方を優先する傾向が強くなっている。これは子供を産むことによって増大する経済的な負担がある。さらに、都市ゾーンを中心とする住宅環境、そして教育費の高騰がその原因となっております。

そこでお伺いをいたしますが、当市においての出生率はどのくらいでありますか。また、昭和50年度における小中学校児童生徒はどのくらいおりましたか。そして、その推移はどうでありますか、お尋ねをいたします。

そして、我が党がこうした実情を踏まえ、緊急対策として提言した1、児童手当制度の改善、これは時代のニーズに対応し、児童の健全育成に貢献するためには児童手当の第1子からの支給とその支給額の改善。2、保育サービスの充実、学童保育も含め、公的保育所の拡充を図る。3、育児休業法の制定、これは女性が安心して育児に専念するために、再雇用制度も含めての早期制定。4、居住環境に対する支援対策の強化を訴え、労働省、厚生省に申し入れを行いました。これらの対策についての市長のお考え、所感をお尋ねをいたします。あわせて市長のお考えがありましたらお聞かせをお願いいたします。

次に、魅力ある職場と企業誘致について御質問をいたします。先ほど申し述べましたように、人口減の原因としては道路、水の問題が大きなネックでありましたが、平成7年には東京湾横断道路が完成し、また東関道館山線と水の問題が解決の見通しであります。残る人口増につながる施策としては、魅力ある職場とその企業誘致が考えられます。これはダイレクトに人口増減にかかわる大事なポイントであります。学校を卒業したけれども、それを吸

収するだけの企業や職場がなければ若者の流出は進む一方なのであります。

現在市内の最も大きな企業はNMBセミコンダクターで、およそ 700人余りの人が働いておりますが、過日郡市内の高校3年生を対象とした意識調査で、84%の生徒が卒業後は郡市外へ出るとの答えがあり、進学や就業の場のない過疎の実態が明らかになりました。それによりますと、どちらかといえは不満が38.6%、非常に不満17.2%、合わせて55.8%に上る半数以上が不満を抱いております。この不満度は前回の昭和54年の調査よりも10%以上高くなっております。不満の理由として、交通の便が悪い33.8%、次に公園、体育館、運動場などのレクリエーション施設が不足しているが22.8%で、総じて交通不便や公共施設の未整備等、社会生活を営む上での利便性の不足を挙げております。また、郡市外へ出る理由として、進学43.1%で最も多く、次いで希望に合った職場がない19.3%、親元を離れて生活をしたい18.9%であり、これは進学者の多いこと、魅力ある職場、就業場所が不足していることを示しております。さらに、将来市内に戻るつもりはあるかとの問いでは、どちらともわからないが35.2%と最も多く、戻るつもりはないが13.3%であります。総括としては、若者の気持ちを地域に引きつけ、さらに呼び戻すための魅力ある職場、企業誘致を今後どう開発していくかが大きな課題としております。

ここで御質問に入りますが、まず第1に、現在当市においてパートを含め300人以上の就労者がおります企業はどのくらいあり、どのような企業でありますか。

第2に、市長さんは公約の中で、生涯学習、学校教育の充実を図り、大学の誘致を目指すとしておりますが、この大学誘致についてのお考えをお聞かせください。

第3に、富士ディーゼル跡地について市で購入するお考えがあるのかどうかお尋ねをいたします。

第4に、インダストリアルパークの今までの経過と今後の計画について御説明をお願いいたします。

第5に、若者の流出の歯どめとなります公園、体育館、運動場などのレク

リエーション施設として、市民運動場にナイター設備の強い要望がありましたが、この点についていかがお考えですか。

第6に、県はさわやかハート千葉5カ年計画の中で、南総地域、安房に地域文化ホール建設の計画の位置づけをされましたが、当館山市にこの文化ホールの設置を県に強く働きかけていただきたいと思います。市長さんの御所見をお聞かせください。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 永井議員の御質問に答弁いたします。

第1点目、まちの経済、社会の指標となる人口問題についての御質問でございますが、今回の国勢調査により本市人口は5万4,574名となり、昭和60年調査と比較いたしますと1,461名、率にして2.6%減少いたしました。この大きな理由は本市の人口構造によるものと考えられます。戦後の高度成長期に多数の労働人口を放出したため、本市の人口構造はピラミッド型から子供を産む世帯の少ないひょうたん型への転換となりました。こうした人口構造の転換は出生数の減少を招き、高齢化を早めてまいりました。加えて、近年の出生率の低下は過去において社会的減少を補う機能を果たしてきた自然動態の機能低下を招き、結果として人口を減少させてまいりました。本市の人口減少に歯どめをかけ、人口増加に転じるためには、市外への流出人口を抑制するとともに、流入人口の増加を図ることが肝要と存じます。このため、地元産業の振興、リゾート計画の推進、企業誘致等の諸施策を推進してまいり所存でございます。

大きな2の小さな1点目の少子化社会における出生率の低下の問題についての御質問でございますが、まず出生率につきましては、平成元年で本市の合計特殊出生率は1.76人となっております。また、昭和50年度における小中学校生徒数は学校基本統計調査によりますと7,260人となっており、以下55年度7,711人、60年度7,969人、平成元年度6,749人となっております。

小さな2点目の公明党による国への政策提言についてでございますが、これにつきましては国政レベルでの提言でございますので、推移を見ながら対

応を検討してまいりたいと存じます。

小さな3点目の出生率の低下と少子化社会に対する御質問でございますが、出生率の低下と少子化は全国的な傾向であり、御指摘のとおり合計特殊出生率は戦後最低の水準となっております。このため、将来の日本においては高齢化の進行、労働力不足等が一層深刻化するものと懸念されております。しかしながら、出産は極めて私的な領域であるため、国等の動向を見ながら対策を検討してまいりたいと存じます。

大きな3の小さな第1点目、現在当市において300人以上の企業はどのくらいあり、どのような企業ですかとの御質問でございますが、事業所統計調査によりますと製造業1社でございます。

次に、小さな第2点目、大学誘致についての御質問でございますが、大学誘致による人口の増加や地域経済への波及効果は相当程度大きなものと考えられます。しかしながら、今後入学者人口の減少が予測されており、大学経営の困難さが増している現在、新規大学の設置は今まで以上に難しくなっておりますが、大学学部の誘致等について、他の施策との財政的均衡を保ちながら、その可能性について検討を進めてまいり所存でございます。

次に、小さな第3点目、富士ディーゼル跡地についての御質問でございますが、当該地は地域活性化のために必要な土地であると考えますので、できれば都市施設等の公共用地として確保いたしたいので、その旨土地所有者に対して申し入れをいたしまして、協議をお願いしているところでございます。

次に、小さな第4点目、インダストリアルパークの今までの経過と今後の計画についてでございますが、インダストリアルパークは、昭和62年度の館山市産業振興基礎調査の結果、館野、九重地区が適地として挙げられました。その後、水資源確保の見通し、道路整備の促進により、本市への企業誘致の可能性が高まってまいりました。本年度に入りましてから地区への説明、県及び関係機関との協議を進め、現在基本計画を策定しているところでございます。今後この基本計画を踏まえ、地域住民の理解を得ながら県と関係機関との協議を重ね、事業化に向けて積極的に推進してまいりたいと考えております。

大きな3の小さな第5点目の御質問でございますが、市民運動場のナイトー設備の設置には地域住民及び海岸道路を走行する車両への影響、沿岸漁業に与える影響、維持管理上の問題等対応すべき問題も多く、慎重に検討してまいりたいと存じます。

次に、小さな第6点目、文化ホールについての御質問でございますが、本市の将来都市像である活力ある文化福祉都市の実現と高質なリゾート地を形成する上で、文化ホールの建設は欠かすことのできない重要な施設であると認識しております。このため、県立地域文化ホールの建設に当たっては、安房地域の中心都市である館山市に建設することが最も大きな波及効果等が期待できるものと確信しております。館山市への誘致について積極的に努力してまいり所存でございます。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） 御質問と御要望をさせていただきます。

まず、第1点の人口問題、人口減の理由とその対策についてでございますが、御答弁によりますと、近年の出生率の低下による自然動態の機能低下、その結果の人口減少であるとの御説明ごもっともであります。ゆえに出生率の問題を指摘したわけでございます。また、社会動態による減少——つまり館山市外への流出口を抑えて流入人口の増加を図る。このための施策として、地元の産業の振興、リゾート計画の推進、企業誘致を積極的に進めていくとのことでございますが、これらの施策は当市にとって命題とも言うべき課題でありますので、どうか強力に進めていただきたいことをお願いいたします。

さて、流出口を抑制する——特に若者の定住が大変大事だと思うわけでございます。この問題に真剣に取り組んでいる兵庫県の大屋町という町がございますので、その大屋町についてちょっとご紹介をしてみたいと思います。

若者の定住を進めようと兵庫県大屋町は、Uターンしたヤングや転入者、果ては縁結びをした仲人さんにまで奨励金を支給するというユニークな中身を盛り込んだ若者定住促進条例をこのほど施行しました。同条例はことし4

月1日にさかのぼって適用されるもので、対象は16歳から39歳までの若者で、5年以上町内に居住することが条件になっております。条例に盛り込まれた奨励金は13種類、支給額は5万円から50万円、このうち若者就労奨励金は、中学校以上の卒業生で町に——いわゆる町内に就職した人には20万円を支給、Uターン、転入では単身のUターン者と転入者にそれぞれ20万、家族ぐるみでは30万円がプレゼントされます。このほか、第3子以降を出産した夫婦には20万から50万円、結婚した夫婦が町内に住む場合は夫婦と仲人にそれぞれ10万円を支給する。また、農林商工業など自営業の後を継いだ若者へ運転資金が必要な場合に限度額50万円を5年間支給したり、町外に通勤する人に通勤手当を助成するユニークな奨励金も設けられております。

この大屋町でございますが、基幹産業でありましたいわゆる鉱山が昭和62年に閉山されて、20代から30代を中心に人口が急激に減少いたしました。そして、この5年間で町人口の2割に当たる約1,000人が町外へ流出いたしました。町関係者は多種多様な奨励金を設けたこの条例に大きな期待を寄せている、このように言っております。このように若者の定住を図る過疎対策を、決してこの大屋町——財政が豊かではないこの町がこのようにいわゆる実施しておるわけでございます。どうか庄司市長さん、これらのことをぜひ参考にいたしまして、この人口問題に対応していただきたいことを御要望するものでございます。

次に、第2点の少子化と出生率の問題につきまして、御答弁のとおりこれは私的な領域でございます。戦後の産めよふやせよ——国や市が口に出して啓蒙すべきものではありません。しかしながら、このままの出生率が続きますと、さきに述べましたようにさまざまな面で問題が生じてまいります。ですから、子供が3人、5人と出産できるような環境づくりが大切と思うわけであります。

さきの提言である児童手当、育児サービス、育児休業制度等については、既に御承知とは思いますが、国はやっと重い腰を持ち上げて12月14日に次のような見直しを決めました。それによりますと——ちょっと御紹介しますと、出生率の低下などに配慮しまして、子供が健やかに生まれ育つ環境づくりを

つくるため、現在第2子から支給している児童手当を第1子から支給して、支給額も引き上げるなど、現行の児童手当制度を大幅に見直すことを決めた。やはり同日開いた児童と家庭問題小委員会の報告を社会部会が了承したもので、手当を第1子から支給する。そして、支給額月額は第1子と現行 2,500 円の第2子に各 5,000 円、第3子以降は 5,000 円から1万円に倍増する。現在の小学校入学までの支給期間を3歳未満に引き下げるのが骨子となっております。これを受けて、厚生省は児童手当法改正案を今国会に提出、来年度から実施する方針だが、国や地方自治体、事業主に現在より 1.3 倍の費用負担増を求めており、年末の来年度予算編成過程での難航も予想されるということでございます。

また、育児サービス、このことにつきましても、女性の社会進出に伴う子育て支援策として、保育所の保育時間を午後10時ごろまで延長するよう促し、時間延長する保育所には年間 500 万円を補助し、また企業が保育施設の経営を社会福祉法人に委託することを新たに認めるとともに、経営に当たる社会福祉法人には1カ所当たり 200 万円を補助する方針としております。

また、育児休業制度につきましては、育児休業制度の法制化を婦人少年問題審議会に諮問。育児休業制度の実現は野党や労働界が強く求めている。労働省は来年の2月中に答申を得て今国会に法案を提出する方針である。育児休業制度は現在公務員の女子、教員、看護婦、保母を対象に実施されておりますけれども、民間企業での普及率はわずか19.2%になっております。公明、社会、民社、連合、参議院の野党4党会派が4月、参議院に法案を再々提出、継続審議となっていたけれども、政府提案とすることでさきに与野党が合意した。これはどういう内容かと申しますと、民間企業の労働者を対象に、子供が満1歳になるまでの間父母いずれかの休業を認めるとの点でございます。そして、我が党の主張する育児休業手当のいわゆる賃金6割相当支給や同制度を導入しない事業主に対する罰則規定に関しては自民党、経済界が消極的な姿勢をとっておる、このような国の動向となっております。

国の立ちおくれが言われている中で、一地方自治体がこの児童手当を実施しております。これをちょっと紹介いたします。大分県の人口 4,700 人弱の

小さな真玉町ってあるんでございますけれども、国の手当のほかに第3子以降の子供に月額2万円を支給しておる。期間は4歳の誕生日までですけれども、年24万円という額は制度として相当な大きな重みがあるわけでございます。この町はほかの市町村と同じく過疎問題が町の悩みであり、町としては幼児期の子育てをしっかりお願いしたいという思いでこの制度をつくったと言っております。また、同じく大分県はこの種の児童養育制度に特に力を入れており、育児手当として第3子以降誕生年に年間30万円、育児2、3年目にそれぞれ10万円を支給している庄内町という町があります。また、出産祝金の名目で第1子に10万、第2子に20万、第3子に30万、第4子に40万誕生年に支給している上浦町、このように大分県は県下42市町村がこの事業を実施しております。県としてはそれぞれの事業費の2分の1を助成しております。

この出生率、少子化、過疎化の対応策につきましてもこのような施策を——このような事例がございますので、どうかまた参考になさって、このような施策をなさるよう御努力をお願いいたします。よろしく願いいたします、市長さん。

第3点に入りますけれども、富士ディーゼルの跡地についてでございますけれども、過日視察研修で和歌山県の海南市へ行ってきました。海南市は人口約5万人、面積が61キロ平米——館山市の約半分でございます。その半分が——61キロ平米の約半分が山である。その海南市で現在駅前区画整理事業をやっておるわけでございます。行っておるわけでございますけれども、その進捗率は99％になっております。市のお話によりますと、この事業を進めるに当たって1つの大きな問題があった。それはどういう問題かと申しますと、上場一部企業であります日東紡績という会社が駅前に広い土地を持っております、その移転の問題で大変だったと申しておりました。幸いこの問題は再三の話し合いで、海南市で持っている代替地があったわけございまして、その代替地に移転をしてもらってこの事業が無事に推進されたとお聞きいたしました。

お答えによりますと、この富士ディーゼルの跡地はいわゆる地域活性化の

ために必要な土地であり、できれば都市施設等の公共用地として確保したいというお答えでありましたけれども、当局、市長さんにおかれましてはこの問題については全力を挙げてひとつ安く買い上げていただきたい、このように御要望をいたします。新土地保有税も大した保有税ではありませんけれども、批判のある保有税でございますけれども……。

次に、インダストリアルパークの計画についてでございましたが、了解いたしました。この企業誘致について、この計画のほかには何か考えておられますかどうかお尋ねをいたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題、経済部長から答弁させます。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） ただいまのインダストリアルパークの計画のほかには何か計画があるのかという御質問でございますが、このほかにはリゾート関連のものの誘致ということが1つは考えられます。そのほかにインダストリアルパークの中で――製造業としては特にインダストリアルパークを考えておるわけでございますが、それ以外には現時点ではございません。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 永井龍平君。

◎2番（永井龍平君） 質問のこの企業誘致は本当に大事な問題でございます。人口流出の歯どめ、人口増に直接につながる問題でありますので、この計画またはリゾート開発による企業の誘致等については強力に推進をしていただきたい。市長さん、よろしくお願いいたします。

最後の文化ホール建設についてでございますけれども、相当な波及効果があると御答弁ありましたけれども、この文化ホール建設につきましては市民や各種団体が数年来要望しているものでございます。体育館のような市民センターではなく、もっと音響のすぐれた施設でよい音楽を鑑賞したいという願いはよりよい文化を求める声にほかなりません。現在音楽、芸能等の発表の会場として使用されている市民センターは、昭和43年に柔剣道場会場と併用できるセンターとして建設されたものでありますから、音響効果や諸施設

も十分とは言えません。このため、各種団体利用者は不便を感じつつ、やむを得ず使用している状況であり、そこで新しい時代にふさわしい近代的設備を備え、音響効果を十分に考慮した文化ホールの早期建設が強く望まれているわけでございます。

館山市は南地域、安房郡市の中核都市でもあります。政治、経済はもとより、文化的にも大きな存在となっております。また、立地的にも、既に昭和58年にはコミュニティ活動の拠点である館山市コミュニティセンターを建設して、これに隣接しまして約1万平米ですか、の用地を確保していると聞いております。交通的な意味で、平成3年国道127号館山バイパスの供用開始、そしてその交通の利便性もございます。このように、立地的にも交通の面においてもまことに利用価値の条件の整った建設地でございます。どうか市長さん、この文化ホールの誘致を若者のために、また市民のためにぜひ建設の実現の労をとってくださるよう強く要望いたしまして、私の質問を終わります。

ありがとうございました。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で2番議員永井龍平君の質問を終わります。

次、8番議員鈴木勝美君。御登壇願います。

（8番議員鈴木勝美君登壇）

◎8番（鈴木勝美君） 発言のお許しをいただきましてありがとうございます。

まず、12月9日、半澤前市長が御逝去されましたことに対しまして心からお悔やみ申し上げます。また、去る11月18日の市長選におきまして当選なされました庄司市長には今後の御活躍を御期待申し上げます。

さて、私は通告してあります2点についてお伺いいたします。本年10月1日に行われました国勢調査によりますと、我が館山市の人口は5年間で1,461人の減少となり、ついに5万5,000人台を割ってしまいました。かつては気候、風土、自然に恵まれた住みよい我が市であったのですが、時代に流され、半島性、陸の孤島、そして袋小路という悪いイメージから、これからの飛躍的な発展が期待できないのが現在の本市の実態であります。県

下5番目の市制を施行して以来、常に南房総の中心都市としての歴史を持っておりましたが、現在我が市を取り巻く富浦町、三芳村、丸山町、千倉町、そして白浜町の隣接5町村が「ストップ・ザ・館山」を目指し、それぞれの振興施策を打ち出してきております。

市長は就任あいさつの中で、市民の皆様の負託に応えるべく、強い決意とあふれる情熱を持って、市の進展と市民の皆様の幸せのために全力を尽くして市長の仕事に邁進しなければならないことを強く心に刻みましたと述べております。この言葉に5万4,500人の市民も心強く思ったことでしょう。さらに、当地域に多大なインパクトを及ぼす東京湾横断道、東関東自動車道館山線の延伸、リゾート法による開発等、地域の実情を踏まえ、「地域の主体性を確立するための教育、文化、スポーツの振興に努めてまいります」とも述べられました。私も市長のお考えに強く共鳴するとともに、一議員として——微力ではございますが、できる限りの協力をさせていただく所存でございます。

そこで、大きな1といたしましてスポーツ振興施策についてお伺いいたします。市長が公約の中で示されましたスポーツの振興は近代都市の欠かせない条件であり、その施設設備を充実しますとうたっておられます。本市が市民憲章に体力づくりを掲げておりますように、館山市民の大半はスポーツに非常に高い関心を持っております。館山市のスポーツ組織は市体育協会の傘下であり、19のクラブと約2,000余名の会員がいると言われております。その会員の人たちが郷土館山の代表として各種の大会に出場して帰ってきたときに、本市の競技施設の貧弱さに歯がゆさを感じるそうでございます。県大会、関東大会などの大きな大会を開くにおいても、現在ある施設では満足な大会は開けないのが現在の状況だと思います。主催者も役員も指導者も、そして選手も皆同じ悩みであろうと思います。スポーツ振興施策の全般についていかがお考えかお尋ねいたします。この質問は教育委員会の所管だとは思いますが、今回は特に市長さんのお考えをお聞かせ願いたいと思います。

次に、小さな第1点、武道館建設についてお伺いいたします。私は前回も通告をいたしました。が、本市が全国的に誇れるものは柔道と剣道だと思いま

す。かつては水泳も活躍した時代がありましたが、今や県中央に移った感がございます。しかし、事剣道と柔道につきましては、戦前、戦後を問わず先輩の方々が活躍いたしましたし、現在でもその価値観はすばらしいものがあると思います。市長もかつては館山小学校、館山二中の校長をなさっておられましたときに、館山二中が昭和57年には全国優勝、そして翌年の58年には関東大会優勝という輝かしい成績をおさめ、全国に剣道館山の名をとどかせました。また、本年10月の県民体育大会でも、館山市がただ一つ優勝したのが剣道であります。地域の主体性とあわせて考えると、武道館の建設をすることにより、現在我が市が伸び悩んでいる観光事業等にも結びつけていけば、本市の活性化につなげていくことができると思います。武道館建設こそ全国規模でアピールできる館山のシンボルとなり得ることと思います。多大なるインパクトを及ぼす全国一の武道館の建設をしていただきたいと思います。市長さんのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

次に、小さな第2点、陸上競技場の建設についてお伺いいたします。明年1月27日に行われます館山若潮マラソンが市行政の努力と市民の協力によりまして第11回目を迎えようとしております。十年一昔といいますが、第1回目の房南中学校を会場としたところが懐かしく思い出されます。そして、参加者も年々増加し、本年も4,000人を突破し、大きな大会に発展してまいりました。このように市当局が長い間努力してきたことと、そしてその裏には関係者の方々による並み並みならぬ苦労が実を結び、公認コースとしての認定を取得したこと等が競技参加者に大きく認められたものと思います。今後ずっと続くであろうこの大会のためにもスタートとゴールが行える競技場が必要だと思います。館山市がスポーツを中心とした安房地方の発展を思うとき、本市が率先し、南房総の17市町村に先駆けて陸上競技場の建設をしていただきたいと思います。いかがお考えかをお聞かせ願いたいと思います。

大きな第2点、リゾートに関しての那古地区周辺の整備計画についてお伺いいたします。リゾート法の承認を受けて、本市も急速に変貌しようとしております。リゾート計画の中で重点整備計画が南たてやまマリパーク計画及び館山レインボータウン計画等は西岬地区を中心に、また太陽海岸平砂浦

計画は富崎、神戸地区を中心に進められております。そして、新しく九重、館野地区には館山インダストリアルパークの整備が進められています。そうした中で、那古、船形地区の整備計画についてお尋ねしようとするものでございます。東京方面からの表玄関としての那古、船形地区は、東関東自動車道館山線の延伸に伴い、将来通過するだけにしかなりかねない那古、船形ですが、実際にはこの地域には館山市で誇れる那古観音、崖の観音、船形港、そしてふれあい市場等観光事業、産業振興につながる資源があり、それらを関連させての整備計画をどのように考えているかをお聞かせいただきたいと思います。

以上、御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 鈴木議員の御質問にお答えいたします。

大きな1のスポーツ振興策について貴重な御意見を聞かせていただきました。小さな第1点目の武道館建設についてでございますが、市営第一柔剣道場もあり、現在のところ新しい武道館の建設は考えておりません。

小さな第2点目の陸上競技場の建設についてでございますが、400メートルのトラックを擁する陸上競技場は必要と考えております。しかし、相当規模の財源を要しますので、あらゆる諸条件を考慮しながら検討してまいりたいと思います。

大きな2点目のリゾートに関連しましての那古周辺の整備計画についての御質問でございますが、御指摘のリゾート計画やインダストリアルパーク計画は諸条件を勘案する中で地域を設定したものでございます。これらの計画の推進により、就業機会の拡大、地元産業との連携や新たな産業の開拓等により、全域の活性化が図られるものと考えております。今後も市民の期待に応えるべく、全市域の適切な振興策につきまして配慮してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 鈴木勝美君。

◎8番（鈴木勝美君） スポーツ振興政策については大体わかりました。先ほど質問しましたように、市長に対しましては館山市のスポーツマン市民が絶大なる期待をしておりますので、体育施設については前向きに実現させていただきたいと思います。

それと、今私は教育委員会の所管の中で市長にお答えいただいたのですが、市行政として保健体育課、すなわちスポーツ課を設置する考えがあるかどうかお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） スポーツ課の設置についてでございますが、今後慎重に検討してまいりたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 鈴木勝美君。

◎8番（鈴木勝美君） わかりました。

それから、武道館建設について、現在のところ館山一中の敷地内にある第一柔剣道場を利用してとの市長からの答弁でございますが、一中内にある第一柔剣道場で市内においても学校生徒以外の大会が一、二回開かれただけで、一般の大会はあの柔剣道場で開けないので、考えていないということではなくて、建てるということで前向きに考えていただければ、柔道、剣道が館山のスポーツの中心であるということから、それを運営している連盟の方々の希望がかなえられると思いますので、ぜひ前向きにお願いしたいと思います。

それから、大きな2点の那古地区の整備計画でございますが、答弁の中で大体わかりましたけれども、ぜひ質問の内容を理解していただきまして、那古、船形地区を入れた館山市全体のバランスをとっていただくことを要望いたしまして、質問を打ち切ります。

今後の市長の活躍を御期待いたします。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で8番議員鈴木勝美君の質問を終わります。

次、11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 質問に先立ちまして、去る12月9日に逝去された

故半澤市長の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

さて、庄司新市長を迎えまして私の初めての質問であります、どうぞよろしく願いをいたします。

まず第1点は、市長の選挙公約と政治姿勢について伺いをいたします。まずその第1点、オンブズマンの導入についてでございます。市長は選挙の際の重点施策として行政の推進と改革を掲げ、その中でオンブズマン的制度を取り入れるとしております。オンブズマンは川崎市で既に実施されたものでありますが、私はリクルート事件の痛切な反省の中から生まれたものと考えておりました。行政が市民の信頼を回復し、二度と同じ過ちを繰り返さないとの決意の中から生まれた制度と思うのであります。行政は常に市民の感覚を大事にしながら進まなくてはならないと思います。いわば市長はこれまで外から行政を見てこられたと思います。そこでお尋ねをいたします。市長はオンブズマン制度の導入の必要を館山市政のどのような中から感じたのでありましょうか。また、オンブズマン的制度と微妙な表現をしているわけがありますが、具体的にどのような制度をお考えでありましょうか。

次に、第2点であります。中央企業主導のリゾート開発計画の見直しについて伺います。市長の後援会では「あっちゃん新聞」を発行いたしておりましたが、この中ではリゾート開発について、まず現在計画されている中央企業主導の幾つかのリゾート開発プランを地元住民の目できちんと見直す必要があります。私たちにとってプラスになるプランかどうか検討し、もしそうでない部分があったらどんどん要望を出すべきですとしています。現在リゾート開発計画に沿って中央企業主導の3つの計画がありますが、その最大の問題はいずれもゴルフ場を中心とした上での採算で成り立っていることであります。しかし、市民が最も心配する点はこのゴルフ場であります。これはこれまで市が実施してきた各種のアンケートでも明らかであります。市長は市民の要望によっては既に計画決定しているこれらのリゾート計画についても見直しをするということと理解してよいのでありましょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、第3点目ですが、高齢者等への割引制度についてであります。

同じく「あっちゃん新聞」の中で、お年寄りはいままで長い間苦勞してこれたわけですから、あらゆる機会を通じて優しくねぎらいましょう。お年寄りが伸び伸びと人生が楽しめるよう、例えばバス料金は割り引いてあげるとか、できるだけ手助けすべきですとしております。私はこの考えに大賛成であります。バスは市が経営しているものではありませんから割り引きは困難であります、市自体が経営をしております国民宿舎や博物館ではそれぞれ割り引き乃至は無料化の制度を導入しております。私はさらにこうした考えを徹底して、例えばシルバーパスなどを発行いたしまして、これを提示すれば市の各種施設、例えば今温水プールを定期的に利用しているお年寄りがいると聞いておりますが、割引制度や免除制度などが利用できるようにしてはどうかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか。

4点目が医療体制の充実についてであります。「あっちゃん新聞」では、医療問題について、特に救急医療、高齢者医療など、専門家の皆さんのアドバイスをいただいて早急に充実させなければなりません。医師会と十分な協力体制をとって医療センターの充実を図りましょうとしております。この医療問題は、他の2人の候補者も総合病院の建設とか医療の総合化などを掲げ、それぞれの考えを打ち出しておりました。いわば争点のない選挙と言われる中で、この点は市長選挙の争点になっていた問題であります。総合病院の建設でも病院の総合化でもなく、市長は医療体制の充実と公約をされておったわけですが、それはどういうことなのかお聞かせをいただきたいと思っております。

第5点目が平和都市宣言についてであります。市長は市民が安心して生活できる常に平和なまちづくりに努めると公約をしておるわけですが、平和に安心して暮らせるということは市民生活の基礎であります。市長はこの平和についてどのように考えているのでありましょうか。現在県内28市の中で平和都市宣言をしている市は、私の調査ではことしの3月末現在で19市と既に過半数を超えております。私たちが視察などで全国各地の市を視察してまいりましても、市役所の玄関先に誇らしく平和都市宣言の看板や垂れ幕などを見ることが大変多くなってまいりました。市長は自ら平和都市の宣言

を提案なさるお考えはございますでしょうか、お聞かせをいただきたいと思っています。

次に、第2点——大きな第2点であります。新年度の予算編成と市民負担の軽減についてお伺いをいたします。まずその第1点、水道料金等の消費税分上乗せの廃止についてお尋ねをいたします。昨年4月から国民の猛反対にもかかわらず消費税が導入されました。市の各種料金などについてもこの消費税分を上乗せするのかどうか市自身にも問われたところであります。こうした中で、市は水道料金、くみ取り料金、国民宿舎料金に消費税を上乗せをいたしました。くみ取り料金の上乗せ分は、簡易課税制度のために国庫に入らない税の横取りということになりました。また、水道会計は幸い黒字で、消費税の上乗せの緊急はないことがこの9月の決算の中でも明らかになっております。この水道料金はいわゆる消費税見直しの論議の中でも非課税品目の第1グループに挙げられているものであります。市長は市自身としてこの際この消費税の上乗せを廃止するお考えはございませんでしょうか、いかがでしょうか。

第2点目、国民健康保険税——国保税の引き下げの問題についてお尋ねをいたします。館山市の国保税は大変高い。中小企業の従業員を対象にした政府管掌健康保険に比べますと、同一水準の収入で比較いたしますと、約2倍の水準になっております。高過ぎて払い切れないという方も大変多くなっているのが現状であります。そこで、引き下げに取り組むべきではないかと思うのでありますが、どのようにお考えでありますか、お聞かせをいただきたいと思っています。

第3点目、都市計画税の税率の引き下げについてお尋ねをいたします。新年度は固定資産税の評価がえが予定されていますが、この評価がえに連動して都市計画税も上がることとなります。従来から都市計画税は大変問題がありました。都市計画事業のための目的税であるにもかかわらず、農村部からも辺地とされるところからも都市計画税を徴収しております。この際、廃止乃至は税率の引き下げを実施し、負担の増大を防ぐべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありますでしょうか。

第4点目、保育園保育料等の公共料金についてお尋ねをいたします。新年度には保育園保育料等の公共料金で値上げを予定しているものはございますか。あるとすればそれは何ですか、その理由をまたお聞かせをいただきたいと思います。例えば、館山市の保育園保育料の最高額は既に6万円を超えております。これは県下28市の中では松戸に次いで第2位と大変高い金額になっているわけであります。新年度ではこれ以上の値上げはすべきではないと強く主張するのでありますが、いかがでありましょうか。

大きな第3点に移ります。高齢者の保健福祉対策についてであります。9月の市議会など、これまでもたびたび市の事業としてどのように考えているのかただしてまいりました。この問題は高齢化が全国に先立って著しく進行している当市にあっては大変重要な課題と理解をしております。そこで、新市長のお考えをお聞かせいただきたいと思いますと思うのであります。

まず、第1点はデイ・サービス事業についてであります。9月市議会で私の質疑に対して、在宅福祉の3本柱であるホームヘルパー、デイ・サービス、ショートステイは高齢者援護として必要な事業であり、今後国、県の動向を見ながら、地域の実情を踏まえ、積極的に検討してまいりたいと答弁がありました。このうち、デイ・サービス事業は残念ながら当市にあっては、これまでもさまざまに検討されてきていますが、いまだ実施に至っておりません。同じ県南にありながら、既に鴨川市などでは「めぐみの里」でこの事業を実施しております。当市にあっては実施に踏み出すときではないかと思うのですが、どこまで検討が進んでいるのでありましょうか。

第2点目、老人世帯への給食事業についてであります。同じく9月市議会で私は館山市のひとり暮らし老人の割合が県平均の約4倍も多くなっている実態を示し、こうしたお年寄りのために給食サービスの必要を提案をいたしました。市ではボランティアによる月2回の給食サービスを3回にできないかを検討する。また、給食希望などの需要を調査するとのことでありました。私はボランティアに頼るやり方では限界があり、市としての公的なヘルプ事業として実施すべきと主張したところでありましたが、市の検討はその後どのようにになりましたか、お聞かせをいただきたいと思います。

第3点目が雨天用の屋根つきゲートボール場についてであります。過日健康と仲間づくりにゲートボールを楽しみにしているというお年寄りとお話をする機会がございました。楽しみにしているゲートボールだが、梅雨どきなど雨が続く季節は大変に困る。鴨川では雨天にも市民体育館でゲートボールができるようになっている。館山市でも実施できないかというものでございました。調査してみますと、確かに鴨川ではそのようになっております。施設としてさまざまな問題があることは承知いたしますが、市としても高齢者の健康増進ということから、愛好者の意見も聞き、工夫をすればこうした声にも応えられるのではないかと思うのでありますが、いかがお考えでしょうか。

大きな第4点であります。合併浄化槽の補助対象を家庭用10人浄化槽から50人槽にまで広げることについてであります。元年度からこれまで家庭用10人槽から50人槽に合併浄化槽の県の補助対象が拡大されております。この補助対象の拡大で新たに対象になるのは飲食店や民宿などであります。これらの方々は、その厨房から出る汚濁物質の量は一般家庭の数倍にも及ぶだけに、こうした環境対策への強い関心が持たれているところであります。こうした方々に合併浄化槽が普及するとすれば、その環境浄化への影響は大変大きなものがあるかと思えます。県の補助制度を最大限に活用し、市の浄化槽の補助対象を50人槽にまで拡大すべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

第5点目であります。飲料用井戸水の水質検査の無料化の問題についてであります。去る10月、埼玉県のにらぎ幼稚園で井戸水を飲んだ園児46名が下痢を起こし、そのうち2名が命を失うという事件が発生したことは記憶に新しいことと思えます。この事件自体は園の管理上の問題などがあったことではありますが、同時に井戸水の汚染の危険の恐ろしさを教えました。市長さんは今でもお宅では井戸水を飲まれていることではないかと思えますので、人ごととは思えなかったのではないかと推察をいたしますが、市内ではまだまだ飲料として井戸を利用している方がたくさんおります。井戸水の水質検査を定期的実施すればよいのでありますが、1回約5,000円もかかるので、

そうちよくちよくともやれないというのが実態であります。もちろん公共施設においてはきちんと水質検査は定期的に行っているものと思いますが、一般家庭でも検査がもっとやれるように検査料を無料化するなり、また市が助成するなりの手だてが必要ではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

第6点、リゾートマンション等の規制に関してであります。市はリゾートマンションに関する指導要綱を実施してきましたが、それはリゾートマンションの規制に一定の効果を発揮してきたと思うのですが、しかしリゾートマンション以外の高層建築物については指導の対象としていません。現に、当初リゾートマンションとして計画してきた業者が目的を保養所に変更してしまいますと、指導の対象から外れてしまいます。大学の寮、保養所などの高層建築物の計画については、たとえ周辺住民に日照などさまざまな問題を引き起こす場合でも、現在のリゾートマンション指導要綱では指導できません。県はこの12月県議会での答弁の中で、2月県会に大型建築物に関する規制条例を提出することを明らかにしました。この条例はかなりの規制ができるのではないかと期待するところですが、いずれにしても条例が施行されるまでの間どうするのかという問題が残ります。県がその条例を出すことがはっきりしていればこそ、いわゆる駆け込みの問題がむしろ出てくることになります。市の姿勢としてどうするのでしょうか。中高層建築物指導要綱については実施するお考えはありませんか。

7点目、児童クラブ（学童保育）事業の実施についてお尋ねをいたします。厚生省の91年度概算要求の中で、これまでの都市児童健全育成事業を整備充実して、新たに児童クラブ事業が計画されております。児童数20人以上のところ国、県、市などで134万6,000円の補助を行うというもので、指導員の人件費について国庫補助が制度化されたことは、従来の健全育成事業に比べて大変大きな前進面であります。これまでもいわゆるかぎっ子対策として議会の場でもたびたび論議されてきた問題ですが、こうした中で市としても積極的に新年度事業として取り組みをするお考えはありませんでしょうか、いかがでしょうか。

以上7点にわたって御質問をいたしました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな1の小さな第1点目、オンブズマン的な制度を導入できないかとの御質問でございます。これは私が市長に立候補した際に、なるべく多くの市民の声が反映される明るい市政を推進いたしたいと思ったわけでございます。今後市民の声を反映して明るい行政を推進するために検討してまいりたいと存じます。

次に、小さな第2点目、リゾート開発計画の見直しについての御質問でございますが、現在進められている民間リゾート開発計画は複合開発であり、ゴルフ場は数ある施設の中の1つであると考えております。リゾート開発に当たっては、本市の恵まれた自然環境との調和に十分配慮することは申し上げるまでもございません。また、リゾート開発は私たち市民にプラスになるものでなければなりません。開発によってもたらされる雇用の場や地元経済波及効果等のメリットがどのくらい大きいかということでございます。したがって、こうした観点から総合的に民間リゾート開発計画にさらに検討を加え、推進してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、高齢者等への割引制度についての御質問でございますが、私は常々高齢者の方々や弱い立場にあるの方々には優しい配慮と愛情が必要であると考えておりますが、具体的な対策については今後十分検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第4点目、医療体制の充実についての御質問でございますが、私たちが一番心配なのは心身の健康でございます。いざ病気になったときの館山市の医療体制は十分だとは考えておりません。平成元年度に実施いたしました市民意識調査の結果でも、医療施設についての要望はかなり高い数値を示しております。今後救急医療や高度医療などにつきまして、専門家の御意見をいただき、検討してまいりますとともに、現在安房医師会病院の改築

計画があると同っておりますので、安房医師会等と十分協議しながら、同病院の充実についてできる限り協力してまいりたいと考えております。

次に、小さな第5点目、平和都市宣言についての御質問でございますが、世界の永久平和と安全は国民だれしもが願ってやまないところでございます。我が国におきましては恒久的な平和を基本的な姿勢としており、それを遵守することは当然のこととございまして、御趣旨は理解するところではございますが、現在のところ今すぐ宣言することについては考えておりません。

大きな2の小さな第1点目の御質問でございますが、御承知のとおり消費税は平成元年4月1日から法律が適用されているところであり、地方公共団体が行う財貨、サービスの提供等につきましても原則として課税対象となるため、当市といたしましては水道料金、鳩山荘の利用料金及びし尿のくみ取り料金に消費税分を上乗せしているところでございます。仮にこれを廃止すれば、本来サービスの受益者が負担すべき消費税を受益者以外の市民が負担することになりますので、現行の法律が適用されている現在、公平負担の見地からも廃止することは考えておりません。

なお、消費税についての問題は、現在国政の場においてその是正について論議されておりますので、今後これらの動向を注意深く見守りながら適切に対処してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、国保税の引き下げについての御質問でございますが、御承知のとおり国民健康保険税の算定は医療費の状況によって定められるところでございます。したがって、本年度の医療費等の動向を見通した上で、来年1月に示されます国、県の予算編成方針に基づき積算することになりますが、現在把握しております9月分までの医療費だけを見ましても、前年に比べ5.0ポイント上回っている状況でございます。過去の実績から推察いたしますと、今後の半年間、特に冬季におきましては医療費の伸びが予測される状況でございますので、国保税の引き下げにつきましては難しいと考えております。

次に、小さな第3点目、都市計画税についての御質問でございますが、公共下水道事業を初めとする都市計画事業が平成3年度以降ますます増大する

状況ですので、これらの貴重な財源として現行どおり課税してまいりたいと考えております。

次に、小さな第4点目、公共料金に対する基本的な姿勢についての御質問でございますが、市議会を初め市民の皆様の御理解と御協力を得ながら、受益の限度において市民負担の公平に配慮し、その適正化に努めてまいりたいと考えております。平成3年度の各種料金の改定につきましては、現在予算の編成作業を進めているところであり、今後検討するところとなりますが、いずれにいたしましても社会経済情勢や国、県等で示す基準等を総合的に勘案し、受益者負担の原則に基づいて対処してまいりたいと考えております。

大きな3、小さな第1点目、デイ・サービス事業についての御質問でございますが、デイ・サービスセンターにつきましては老人ホームに併設することが原則でございますので、施設や職員の問題もあり、現在施設長と協議しているところでございます。今後広域的に実施する方向で検討を進めてまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、老人世帯への給食事業についての御質問でございますが、現在館山市社会福祉協議会においてボランティア、民生委員等の協力により、給食サービスを月2回または3回実施しております。さらに、現在給食希望者のニーズ調査を実施中でございますが、今後その結果によりまして検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、雨天用屋根つきゲートボール場についての御質問でございますが、現在市内各地区には自主的に設置されたゲートボール場が43カ所48面あり、さらに大会等の場合、市民運動場、コミュニティセンター広場等で58面の使用が可能です。ゲートボール人口につきましては約1,000名と推計されておりますが、雨天の場合これらを充足することは用地の確保、地域差、経費等大変難しいと考えますので、雨天用屋根つきゲートボール場の設置につきましては現在のところ市としての計画はございません。

大きな4の合併浄化槽の補助対象を家庭用50人槽に広げることについての御質問でございますが、平成3年度から補助枠の拡大を図り、処理対象人員

が50人以下の住宅要件を満たす浄化槽について補助対象とすることを考えております。

大きな5の飲料用井戸水の水質検査の無料化についての御質問でございますが、地域、世帯によって井戸水の利用方法が異なり、また水道利用世帯との均衡上、水質検査の無料化につきましては慎重な対応が必要と考えております。

大きな6のリゾートマンション等の規制についての御質問でございますが、リゾートマンション等の建設につきましては、市民生活への影響や良好な景観保全の観点から、都市計画法を初め建築基準法、自然公園法、館山市宅地等開発事業に関する指導要綱及び館山市リゾートマンションの建設に関する指導要綱等で指導をするとともに、地域の実態に即した中高層建築物の規制について検討をしているところでございます。また、県に対して建築基準法施行条例の改正による規制について要望をしてきたところでございます。今後も条例の改正等について県に要望するとともに、市の指導要綱の検討を進めてまいります。また、新たな中高層建築物の建築申請については、県と協議しながら適切な指導を行ってまいりたいと考えております。

大きな7の学童保育についての御質問でございますが、現在小学校1年生から3年生までの留守家庭児童について実態を調査したところでございますが、今後さらに保護者の意向等を調査いたしまして前向きに検討してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） オンブズマンの問題につきまして、いわば行政監視員というふうに言われていますけれども、具体的な話まではまだこれからこのことのようにありますから、また違う場所の中で議論をしていきたいと思っております。

リゾート開発計画の見直しでありますけれども、市民にプラスになるようなリゾート開発でなきゃならぬ——これは私も全くそのとおりであります。そういう中でこれから種々検討も加えていくということでありましたけれど

も、私はこのリゾート開発の一番の問題はやっぱりゴルフ場をめぐる問題、これが最大の問題ではないかということを常々思っているわけです。

実際に市が行いましたアンケート調査 — 市民の意識調査とか、あるいはそのリゾート開発の対象地域を中心とした調査、いろいろやっておるわけにありますけれども、リゾート開発について市民の意識の中では、リゾート開発は自然保護を優先というのが40%なんです。開発を積極的に — 自然はある程度しょうがないだろう、それでも開発は必要だからというのが約15%です。両者を比較検討するというのは約30%ということで、市民の中ではリゾートの問題については自然保護優先派というのがいわば多数派といえますか、一番多いわけです。これが今の具体的に示されている状況でありますし、そういう中で困る施設というものはどういうものがあるんだ、リゾートの開発でこういうものは来ちゃ困るという中で、一番トップになっているのがゴルフ場です。50% — これは対象地域の方の調査ですけども、約50%の方が一番こういう施設は困ると言っているそのものがゴルフ場です。これがトップです。リゾートマンションが40%ぐらい。あとは10%台、20%台ありますけれども、この2つが断トツなんです。ゴルフ場に対しての市民の危惧が大変強い。

観光客 — 館山に来る観光客の調査をやったところでは、館山市にどんなリゾート施設が必要かと調査した。A、B、C、Dとそれぞれ必要度のランクをやっているんですが、ゴルフ場はDランクなんです。一番必要度の少ないランクになっているわけです。観光客からも期待がされてない施設なんです。Dランクというと、サーキット場ですとかギャンブル施設とか、そういうものと同じ水準なんです。こういう状況から見ると、果たして本当にゴルフ場が市民にとってプラスになるというふうに考えていいのかどうか。

ところが、企業が採算の面から考えますと、いろいろ複合施設でありますから、損する事業もあるし、しかしもうかる事業もあるということの中で、総合的に企業の採算計画が出されていますから、この採算の計画内容も — 昨今では熊谷組の例なんかが示されましたけれども、やはり採算の中心になっているのはゴルフ場なんです。ゴルフ場を認めないとなれば、計画全体が

採算上企業の側からは成り立たない、こういうところにあるんです。市民の側からはゴルフ場はどうも問題であるという、ここなんです。ですから、見直しが必要だとここで市長が言ったということは、私はこのゴルフ場の問題についてどういうふうに考えられているのか、ここが一番聞きたいところなんです。その辺はいかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） リゾート法で承認されておりますプロジェクトでございますので、国あるいは県の指導を受けましてこれから推進をしたいというように考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そうすると何ですか、ゴルフ場は推進をしていく、こういうふうに理解していいんですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 端的に言いますとそうなりますが、やはり県の指導だとか、あるいは環境アセスメント、あるいはそのほか林地開発等の指導も受けまして自然を極力確保していく。その上で開発をしていくというように考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） ゴルフ場も状況が変わりまして、最近何かもうからないふうな計算が大分出てきましたから、今後ゴルフ場の方からもうやめますということがあるかもしれませんけれども、そういうふうにならないとしても、今の御答弁と市長さんが選挙で言っていたことと大分開きがある、率直に言いまして。端的に推進と言っていますから、市長さんは公約で端的にプラスになるかどうか見直していくんだと言っているわけで、この辺がかなり微妙なんですけれども、市長さん、いろんないきさつもあるかと思うんですが、いかがお考えですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） 御案内のようにこのリゾート計画の中で、県はやはり国の承認を得た――事業として認められているものについては推進す

るんだというような考え方をしております。その辺で市といたしましても、せつかく国でも認めた承認事業でございますので、市民の御理解が得られるならば実施していきたいというように考えております。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 部長さんのお考えはよく — 御答弁としてはわかります。市長がかわりましたので、その点を十分よく考えていただいて、市長さんが選挙で公約されたことでもあるわけですから、そういうものを踏まえて今後の施策について — 市長さんの御意見もこれからどういうふうに — まだついたばかりですから端的な形でというわけにはいかないかもしれませんが、十分配慮しながら今後執行部側の方でそれぞれ論議を詰めていただきたいなと思います。

次であります、それぞれ今後十分に検討されるという — この行政が言う検討はなかなかいろんな意味があってよくわからないところもあるんですけれども、何点かお聞かせをいただきたいと思うんですが、国保の問題です。国民健康保険税、これは本当に高いということで、私は先ほどの質問の中でも政府管掌健康保険、中小企業の従業員を対象として — 政管健保ですね、この保険料に比べますと、国民健康保険 — 館山市の場合の国民健康保険というのはざっと言って所得のランクで — 計算が違いますから正確な比較というのはかなり難しいですけれども、大まかに言って約2倍ですよ、高くなりますよ。組合健保なんかですともっと安いんですから、もう2倍以上の開きになるでしょうし、皆さんが入られている共済なんかに比べるとさらに開くということで、国保に入っている人はもう差別を受けているんじゃないか、これはもう重大な不公平だ、こういうふうに思うんです。これは国自身がそういうことをやっていること自身に — 医療制度に重大な問題があることはもちろんそのとおりなんです。そのことは、国がもっと国保に対する国庫負担をふやさなきゃならぬ。これはもう抜本的な問題です。

しかしそういう中で、市としてもこれだけ大きな国保の不公平がある以上、行政としてそれに — 幾らかでも不公平を是正するという姿勢があって示すべきではないかなと思うんです。一定のことがやられておりますけれども、

私はまだまだ十分ではない。まだ相互扶助の限度を——相互扶助という、そういう中での限度以上の一般会計からの繰り入れになっていない、率直に申しまして。もっとこの不公平の是正という視点から積極的な補助、助成措置があつてしかるべきではないかなと思うんですが、その辺いかがお考えですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 国保の問題については、以前からこの議会でも、また市民の間からでも議論があるところでございます。ただ、基本的にはただいま神田議員さんがおっしゃったとおり構造的な問題があるわけでございます。同じ医療にかかっているにもかかわらずその支払いが違っている。やはりそこらからこの問題はきています。でありますので、行政でやれるものは限られるわけでございます。これについても以前から前市長の方針で、無差別じゃなくて一定のルールに基づいて一般会計から繰り入れようということになっております。でございますので、これからもそのルールは守っていくということで、それ以上は現在のところ考えておりません。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 市長さんは国保に入られていたと思うんですが、この国保が高いということについてはいかがお考えになっておられましたか、その辺のざくばらんな話をお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長。

◎市長（庄司 厚君） ざくばらんにお答えいたしますけれども、私は国保あるいは社保、その比較を具体的にしたことございませんで、また館山市の国保がどういう基準になっているかこれから十分検討してからお答えしたいと思ひまして、これ以上お答えしようがないわけです。きょうはその辺で……。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 半澤市長さんは端的に高いというふうに感じておりますというふうにおっしゃっておられました、議会の場でも。それで、私

のそのときの議論でも、大体社会保険に比べると約2倍という水準になりますということも市自身がお認めになっておりましたので、そういう比較を市の当局から具体的にお聞きになって、そういう中で余り高いものだから払えないという人がたくさん出てきている現状もあるわけです。滞納も非常に多くなっておりますし、そういうことを含めてこの国保の問題は館山市政の中の重大問題になってきておりますので、選挙政策の中で余りこの問題は触れられる方おらなかったのですけれども、ぜひこういう中で市民の叫びと思って、国保を何とか安くしてほしいという、これはもう議会でも一致した意見でございますので、御配慮をお願いしたいと思います。

それで、デイ・サービス事業について、高齢者の福祉の問題でありますけれども、現在協議中で、老人ホーム等に設置する方向でやっている——広域的にやるというんですが、広域的ということはみんなで一緒に手をつないでやるわけですから、手をつなぐのが嫌だということがあるとなかなか進まないわけですが、実際にみんなよしやりましょうと各市町村の足並みがそろっているのかどうか、そしてその設立の時期についてはどういう時期を現在目途として考えておるかお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） デイ・サービスの広域的な問題でございますけれども、現在各市町村の福祉関係の課長でもって組織されている会があるわけでございますけれども、そこでもって今現在検討中でございます。開催の時期も、そういうことでございますので、現在のところいついつというものにはなっておりません。現状はそういうことでございます。

以上です

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そうすると、いつになるかわからないという不安があって、既に鴨川市でももう実施に踏み出している段階でありますし——鴨川と和田ですか、それから天津ですとか一緒になってやっております。そういう段階でどうも市の方がいろいろと——前もそういうような御答弁で、相談をして広域的にということでありましたけれども、この広域的にやると

いうことは絶対的な条件としてお考えになっておるか、どうも協議が調わないことが — なかなか他の町村と足並みがそろわないために話が先に先になっていくんだとしたら、場合によっては市単独でもやることもやぶさかではないというふうに考えておられるのか、その辺いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 広域の中での話、各市町村担当の話の中では設置をするという方向は打ち出されているわけでございます。ただ、それを現在見守っているという状況でございます。ですから、館山市が独自でいわゆる見切り発車をするかどうか、そこらの点まで現在考えておりません。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） お年寄りの給食事業についてですけれども、調べていてびっくりしたんですけれども、鹿児島の方は大変この給食サービス事業が各市町村取り組みが進んでおられているようで、宮之城町では毎日 — 日曜、祭日を除いて毎日食事を届けるという事業を実施しておるということでもありますけれども、規模的にも大体20%の老人化率というようなことで、ひとり暮らしのお年寄りが700人をちょっと欠けるぐらいで、館山市が約1,000人を欠けるぐらいですから、そんなに遜色ないくらいひとり暮らしの老人がおるところですけれども、ここでは毎日やるということで、驚いたことに職員が2人でそれをやっているというようなことで非常に驚いたわけですが、こういうふうにやっている自治体が全国にはありますんで、こうしたことを踏まえて — 今希望調査をするんだというお話でありましたけれども、私も従来かなり大変な事業だなというふうに思っていたわけですが、こうした中でやっている自治体の実際を見ると、これはかなりやれそうだなという感じをつかみましたので、ぜひそうしたことの実情を踏まえまして研究していただきたい。これはもうぜひやらなきゃいけない事業だというふうに認識をしていただきたいと思うんであります。

それで、飲料用井戸水の水質検査でありますけれども、水質検査には慎重な対応で検討するというのはどういう意味なんですか。何を慎重に検討する

のか、その辺がちょっとわからないんですが。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） これについての慎重な対応という語句でございますけれども、かなり困難性があるというニュアンスでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そういう意味ですね、そうすると。慎重な対応というのは——こういうお役所用語というのは難しいところがありまして、人がいいものだからああやってくれるんだなとすぐ思うんで、私らなんかそう思っちゃうんだけど、ちゃんと聞いておいてよかったですね、そうすると。どうですか、市長さんのところなんかは水質検査ちゃんとやっているんでしょうか。あの辺はたしか水道がない地域ですし、そういうところの住民の声としては、せめてこれぐらいは何とかしてくれなきゃ、市は一体この地域の住民を何と思っているんだという声が出てもこれはしょうがないんじゃないかと思うんです。いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） ただいまの未給水に絡めての水質検査というようなお尋ねだと思いますが、館野、九重の井戸水の検査につきましては、館野、九重の両水道促進協議会、この会と協議いたしまして、館野、九重を含めて54点の抽出をしまして、その水質検査を分析して、定点観測というような形で水質検査をし、その結果を両促進協議会に御説明をしている状況でございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そうすると、定点観測やっているからこの井戸は安全だというふうに考えてよろしいということですね。

◎議長（渡辺昭夫君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 安全だということは言い切れませんが、1つの目安としてその水質を出しているわけでございまして、それに基づいて浄水方法等を検討しているわけでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 定点でやっているということは、それは大事なことでありますけれども、しかし具体的な井戸を——それぞれ汚染というのはかなり具体的な問題でありますから、それぞれの個々の井戸についての調査を住民自身がやろうということであれば、それは市としても積極的な助成をしたり補助をしたりして、そして市民には安心して井戸水も使ってもらふということは、私はなんでそんなに困難——慎重な対応という困難性のあることになるのかさっぱりわからないんです。極めて人間として生きる上での最低のことであって、行政として最低限やらなきゃならぬことに属する問題じゃないかなと思うんですけれども、しらさぎ幼稚園——きょうもテレビでやっていましたけれども、ああいう事件が日本国じゅうに警鐘を乱打したことだ、私はその警鐘を乱打したことに対して、行政の方が乱打だというふうに、警鐘を鳴らされたんだというふうにお考えになっていないんじゃないかなという危惧を感じるんです。慎重な対応を積極的な対応として今後検討すると言いかえてもらえませんか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 無料化につきましては、まず県の対応といえますか、そういったものも私たちは参考にしなければならないわけでございます。県の方の対応としましては——今御指摘のしらさぎ幼稚園の件につきましても、あくまでもあれはいわゆる管理ミスだということでございます。そういうことで、県もこれからああいう事態が起こらないように積極的ないわゆる啓発活動を推進していきたいということでございます。その中には、やはりポイントになるのは各自が所有しております井戸の管理を十分にしたいだきたいということでございます。それで、そういうことで再発防止を図っていききたい。この井戸の検査手数料につきましては、あくまでも受益者負担の原則でいくということでございます。そういうようないろいろの問題もありますので、慎重な対応というふうに考えております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 今の答弁だとやるということになるんです。井戸の管理を皆さんちゃんとやってくださいと言ったんです、部長さんは。井戸の管理をちゃんとやるということはどういうことかといえば、水質検査をちゃんとやることは大事なその中の1項目じゃないですか。それに行政が助成するというのは当たり前です。だからそういうことを言うんです。井戸の管理といったって、隣のうちと——おまえそこに排水流さないでくれ、そこから流すとおら方の井戸が汚れるんだというような近隣の関係もあったりしますから、自分のところの管理だけじゃできないわけです。いろいろ関連が出てきますから、井戸水というのはもう公共的なものだという考え方が最近はどんどん進んできていますから、ですからその水の水質を調査するというのは極めて公共的な性格を持っているんです。本当にちゃんと管理を個々の人にやりなさいやりなさいと言う以上は、市の方で助成をするからちゃんと水質の検査もやりなさいよ——私無料化と言ったからちょっと過激だったのかもしれませんが、半分助成するからやりなさいよという言い方もあるかもしれませんが、それは。そういうことも含めまして、市の方でもこの井戸水の管理をちゃんとしてもらいたいからこういう助成措置をとります。ぜひ皆さんやってくださいよ、こういうことをやれないんですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在のところ困難性のある問題で、やらないということではないわけでございますので、御理解いただきたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 非常に期待をしておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

そこで、少し前の方に戻りますけれども、公共料金の問題でありますけれども、先ほどのお話で保育園保育料等の値上げを予定しているものがあるんですかというお話では、料金の改定については国、県の基準等の動向を見ながら慎重に対応していきたいというお話で、値上げするものではありませんという御答弁じゃなかったわけです。いうことは、これは値上げするものを考

えておるんだなというふうに私なりに理解をしたんですが、いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 現在予算編成を進めている段階でございますが、今後検討していくということでございますが、いずれにいたしましても、市長答弁していましたように、国、県等の示す基準等を総合的に勘案して、受益者負担の原則ということで対処していくということでございますので、今後の予算編成の中で考えてまいりたい、こういうことでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 受益者負担については言いたいことたくさんあるんですけども、前の市長さんが一番私と議論をよくしたのがその受益者負担の問題だったんですけども。受益者負担をそんなに言うんだったら何で都市計画税の線引きをきちんとしなないんだという問題が当然出てくるわけがありますけれども、その問題はさておくとしたしまして、国、県の基準ということで、具体的にはそうすると幼稚園の保育料あるいは保育園の保育料、これは従来そうした基準、国、県の指導に基づいてということでやられてきた問題であります。これは具体的に検討対象になっているというふうに理解していいかどうか。それ以外、ほかに何か検討しているものがありますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 今申し上げましたように予算編成の中で進めていくということで、具体的に今ここに示すものを持ってございません。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 3月の議会に議案として出てきちゃった段階じゃもうどうにもしようがないんで、今の段階でその基本的な予算をつくる上での議論として、どういうふうに考えるのかということで議論をしたいから聞いているんです。

具体的に話をいたしますと、保育園保育料については、特に3歳未満児については千葉県の中で、28市ある中で館山市が6万円を超えている市としては松戸に次いで第2番目だ。これまでも私こういう非常に高い保育料については――市独自にそれぞれみんな工夫をして、そう高くないようにして

いるわけです。先ほどの質問の中で子供が大変少なくなっている問題議論がありましたけれども、やはり社会的に子供を育てていくという、行政としてもそういう点では保育事業なりを充実させていくということは大変重要なテーマの1つなんです。それぞれの市町村がそういう中でそれぞれ工夫をしているにもかかわらず、館山市は工夫が足りないんじゃないか。そのために松戸に次いで2番目などという大変高い料金になっているわけですから、国、県の指導があるからといって、それぞれ市町村全部違うんです。国、県の指導は同じなんです。館山だけ高くしなさいなんて指導来やしないんですから。そういう同じ指導をしてきている中にもかかわらず館山市が高くなっているわけです、保育園の保育料について。こういう問題についてどういふふう考えるのか。国、県で新しく値上げをしますよという指導が来たから、じゃあそれに従ってやりますよというふうにするのかしないのか。これは市自身の判断になるわけですから、いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 保育園の措置費等でございますけれども、これは国、県の基準によりまして、市の方も同率ということになるかと思えます。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） そうすると、上げるというふうに理解をせざるを得ませんので、大変大きな問題だと思います。

市長さんにおかれましては初めての議会ということで、今後のこの館山市政を担っていくわけでありまして、ぜひ市民の立場というものを初心という意味で大事になされながら今後の市政の運営をお願いしたいと思います。

じゃ、終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で11番議員神田守隆君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午後零時08分 休憩

午後1時01分 再開

◎議長（渡辺昭夫君） 午後の出席議員数23名、休憩前に引き続き会議を開きます。

次、28番議員飯田義男君。御登壇願います。

（28番議員飯田義男君登壇）

◎28番（飯田義男君） 通告質問の前に、去る12月9日突然御逝去をなされました前半澤市長に対しまして一言弔慰を申し上げます。

顧みて、4期16年の長きにわたりまして館山市政を担われ、卓越した識見とすぐれた指導力によって数々の功績を残されました。任期の終わる日の直前まで、病苦と闘いながらも毅然とした態度で公文書の決裁をなされたと承っておりますが、あなたの生涯はまさに壮絶なる終えんでありました。棺を蓋いて事定まると申しますけれども、館山市へのあなたの貢献とその事績はやがて公正な評価によって長く伝えられるものと信じております。本当に御苦労さまでございました。今はただ心から御冥福をお祈り申し上げます。

さて、かねてより通告いたしました問題についてこれから質問に入りたいと思いますけれども、庄司市長は就任初頭の議会でありますので、具体的な内容に及ぶ答弁は求めませんけれども、大筋としての考え方についてお答えいただきたいと思っております。

まず、第1点の産業振興に対する概念についてお伺いいたします。先日の所信表明の中で、市長は南房総地域は半島性であるがゆえに生活や産業の基盤の面で立ちおくれていることを述べられましたが、もちろんそれも1つの原因であります。過去における行政上の指導力と住民の熱意が乏しかったことも大きな原因であったのではないかと私は思うのであります。しかしながら、今や南房総はいろいろなプロジェクトが展開されており、21世紀に向かって大きく変貌しようとしております。したがって、我々に与えられた重要な課題は山積をいたしております。要するに、自分たちの郷土は自らの努力で創造し、生活の道を切り開いていかなければならないのであります。そのためには、経済基盤の確立は極めて重要な課題であろうと私は考えるのであります。そこで、市長はこの問題に対してどのように考えておられるのか、またどのように位置づけておられるのか、おおむねの考え方を承りたいと存

じます。

市長も御承知と存じますが、近隣市町村でもそれぞれに特産品の創出や産業の振興に着々と実績を上げております。そこで、私は1つの提案をいたしたいと思います。市長は就任間もないこともありますので、まず各種生産団体あるいは商工業団体等との積極的な交流を図り、リーダー的なグループの育成強化を図るなど、全市民的な協力体制をつくるために市長が先頭に立って努力していただきたいのであります。

次に、これとあわせて21世紀に向けての館山市における農漁業などを機軸とした産業振興のための研究協議会、これは仮称でありますけれども、その中に専門的なノウハウを持った指導者あるいはコンサルタントを加えてこの協議会をつくっていろいろと検討を進めてはいかがでありますでしょうか。

次の大きな第2点の教育文化行政のコンセプトについて市長の御所見を承りたいと存じます。いわゆるコンセプトは教育文化に対する理念であります。今の日本は豊かで教育水準も高く、治安もいいし、世界の国々から羨望の的になっております。このような成長発展を遂げたことは、1つには戦後における民主教育や経済や産業技術に対する教育によって培われた結果であることは見逃せないと思いますけれども、その反面国際人としてのモラルや地域社会における連帯感、つまり社会人としての使命感が失われておるのではないかと案じている人は私だけではないと思います。

私は昨年南欧諸国、ことしは東欧諸国を視察してまいりましたが、彼らは決して豊かではありませんが、それぞれの国にそれぞれの祖国を愛し、地域社会への貢献を願い、祖国のために尽くした先輩に対する尊敬と感謝の念が強いことを痛感してまいりました。そして、世界は21世紀へ向かって音を立てて変革していることをひしひしと感じてまいったのであります。

日本の豊かさは決して永遠に続くものではないと思います。これから50年、いや100年後の日本を考えると、次の時代を担う子供たちの教育を21世紀時代に即応した正しい方向に改める必要があると私は確信をいたしております。もちろん教育の基本は国民の意思によって国が定める問題でありますけれども、せめて我々は限られた地域社会において、社会教育を通じて、生涯

教育を通じて、子を持つ親たちとともに日本人としての生き方を伝承していく義務があると思います。豊かになるための教育から心の豊かさを教える教育こそこれから求められる方向ではないでしょうか。住みよい環境で、その上に豊かで地域に根づいた教育によって住民の心に潤いが持てるようになれば、地域の文化はきっと花開くことでありましょう。

なお、スポーツの問題については、前段鈴木議員の御答弁でさらなる質問はいたしません、最近館山市のスポーツはその地位が非常に低下しているように言われておりますけれども、市長のお力でぜひとも押し上げていただくことを御要望を申し上げておきます。

いずれにせよ、教育に関する問題は長い経験と実績を持った庄司市長の専門分野でありますので、御高見を賜りたいと存じます。

次に、第3点の愛情のある市政についてお伺いしたいと思います。市長は立候補に当たって、公約の1つとして温かい心の通い合う市政を表明しておられましたが、私も大いに賛同いたしました。今市民は新しい市長の今後の市政に強い関心と期待を持って見守っております。先日の所信表明によれば、全市民的な立場に立って、選挙のわだかまりは一切白紙に戻して公平な市政に専念する旨の発言がありました。このことはまことに結構なことであり、敬意を表する次第であります。

そこで、私はまず積極的な市民との対話が必要であると思います。市民への思いやりあるいは愛情はそこから生まれてくるのではないのでしょうか。市長が高邁な識見と将来を見通した洞察力を持ち、かつ情熱を持って市政に尽瘁しなければなりませんけれども、限られた予算の中で市民のすべての要望をかなえることは不可能であります。しかし、これからは今までに倍して市長に対する要望が多くなることを覚悟しなければならないと思うのであります。市民1人1人の身近な環境整備は、素朴な問題ではありますが、この人たちにとっては極めて重要な問題であります。できることは速やかに実施をしてやる。できないことは納得させる誠意を示すこと。そして、いつになったらできるかを明確に指示してやる気配りがあれば、市民は必ず理解し、協力してくれると思います。市長が未来に向かって大きなビジョンを達

成させるためには、市民の理解と協力なくしてはできません。どうか初心忘れることなく、温かくて愛情のある市政実現のために職員ともども頑張っていたきたいのであります。

次に、第4点の地域格差の問題、再検討をしていただくことで提案いたしますけれども、その対応策もあわせて将来着々と実行していただきたいと思うのであります。

幸い市長さんは館野地区に住んでおられますので、日常生活の実感として体験されておると思います。市街地から離れた農漁村、郊外地域に住む人たちは大なり小なり市政に対する不満と矛盾を持っております。例えば、道路を改良するためには作業奉仕をしなければならない。側溝の清掃、草刈り、こさ切りなど、年間に数十日の作業奉仕に出動するような現況であります。市内ではそのようなことはほとんどございません。最近都会から老夫婦の移住が非常に多くなりまして、農道は生活道に変わり、しかも年寄りがゆえに、あるいは作業になれないために奉仕には出られない。そのために、地元住民とのトラブルが多く発生しております。また、田舎の方には公園もなければ、ショッピングをするにも遠い。市役所へのいろいろな所用にバスを使う。自動車を使う。バス代だけでも遠いところでは1,000円以上の出費になる。市の職員にその仕事を依頼するにはお礼をしなければならない。いろいろな問題があります。市街地の公共下水道事業はようやく本年から着工いたしまして、10年乃至20年後には供用が開始される見通しがついてまいりましたが、それ以外の郊外の部落では全然見通しがついていない。いわんや館野、九重地区はいまだに水道がない。これは理由がありますけれども、それでもこれは全く論外であります。

このように、実に枚挙にいとまのないほど市街地と郊外では格差があるわけございまして、この解消はなかなか困難ではありますけれども、これが実情であります。もちろんすべて同じ条件にしなければならないなどとは考えておりませんけれども、せめて今後これらの問題を検討をされまして、一步一步その地域社会の実情に応じた改善、進歩があつていいのではないのでしょうか。この際こうした実態を調査検討をなされて、逐次前向きの対策を実

現していただくことを強く要望いたします。

次に、第5点の首長と議会の関係確立と相互信頼による協調体制をつくる上で市長さんの考え方をお伺いいたします。この問題は今さら取り上げる問題ではないかもしれませんが、今後市行政の円滑化、活性化のため、あえて確認する意味で質問いたしました。

御承知のとおり、執行機関である市長と議決機関である議会との関係は、地方自治法によって定められているように、原則的には対立関係であります。互いに抑制し、かつ均衡のとれた形で運営されるのが建前であります。市長の行き過ぎや独裁を議会がコントロールするとともに、議会の行き過ぎや越権を市長がコントロールしながら、ともに市行政の責任を住民に対して負うことになっております。また、市長も議員も住民の選挙で選ばれた者であり、両者の立場は全く対等であり、それぞれの職能の分担によって市政の進展のためには車の両輪のごとく協力をしていく責任があるのであります。したがって、市長が行う市政の良否は議員も同じ責任を負わなければなりません。昭和22年に現在の地方自治法が制定されて以来、時代の要求に応じて幾たびか改正されておりますけれども、市長と議会の関係もいまだ少し振幅のあるものに改正すべきではないかと私は痛感をいたしておるわけでございます。

館山市においては過去おおむね順調な運営がなされてきましたけれども、なお不満とする問題もたくさんありました。今後よりよい信頼関係を構築するためには、議会に対する市長の誠意、そしてそれを受け入れる議会の公正な理解が必要であります。今後の議会との関係をどのように考えておられるかお伺いをいたします。

以上、私の質問を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの飯田義男議員の御質問にお答えいたします。

大きな1の産業の振興に対する概念についての御質問でございますが、御質問の2点につきましてはそれぞれ関連がございますので、一括してお答え

いたします。また、大きな3以降も同様にお答えいたします。

産業の繁栄は市民生活に豊かさをもたらす源であり、優先して推進すべきものであると認識しております。基本的には産業振興の基盤となる施設整備とあわせ、地元産業の振興、企業誘致も含め、新たな産業の開拓に全力で努力してまいりたいと考えております。また、21世紀に向けて海洋性リゾートタウンの建設を進める中で、館山市の持っている自然、文化、人材等の資源を十分に生かした産業の振興を図るべく、市民の英知を結集して時代に即応した施策を推進してまいりたいと考えております。

大きな2の小さな第1点目の御質問についてお答えいたします。御質問の物の文化から心の文化への変容については、今まさに大きな課題となっている生涯学習社会への移行と受けとめました。このような状況の中で今行政に求められている役割は、人びとが一生涯にわたっていろいろな学習を通じて1人1人が潤いのある明るく人間性豊かな生活を送れるようにしていくことが重要であると認識いたしております。そのためには、市民の皆さんが心の豊かさを実感できる多様な学習機会を提供できるよう、学校教育、家庭教育、社会教育の相互間の連携はもちろん、一般行政の関連分野とも連絡調整を図りながら、市民を主体とする生涯学習の推進体制を目指してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目でございますが、来るべき21世紀は科学技術の高度化、国際化、高度情報化等の社会経済状況の変化や高齢化の進展に伴いまして、新たな知識、技術の習得などの要求が出てくるものと予測されます。そのような状況の中で、人間のあり方と心の教育が最も重要な課題であると考えます。そのためにも、社会の変化に自ら対応できる人間性豊かな児童生徒の育成こそ21世紀に向けての人づくりと考えます。このような観点から、館山市の教育施策である「郷土を愛し、郷土の発展を願う優しさと思いやりのある心を兼ね備えた人間味あふれる人づくり」は、まさに21世紀に巣立つ児童生徒の育成に適応するものであり、今後この教育施策に基づいて教育の充実に全力を注ぎたいと考えております。

大きな3つ目の愛情ある市政への心構えについての御質問でございますが、

市民との対話と協調に関しましては、私は民主主義の原点であると認識しております。したがいまして、常に市民との対話や思いやりに配慮するとともに、市民と行政との協調に心がけて市政を運営してまいる所存でございます。

大きな4の市街地と農村地域の行政の再点検についてでございますが、市民である限りひとしく行政サービスを受ける権利があることは御指摘のとおりでございます。市民の生活環境整備充実のため、公平、効率的な行政の執行を図ってまいる所存でございます。したがいまして、具体的な事例に応じてあらゆる面から総合的に勘案し、対処してまいりたいと考えております。

大きな5の首長と議会との関係確立についての御質問でございますが、御存じのように両機関はそれぞれ住民の負託により、その権能に基づき、お互いの立場を生かしながら均衡のとれた行政運営を確保することが求められております。同時に、住民福祉向上のため、ともに責任を果たすべきことは当然のことと考えております。したがいまして、両機関の強い信頼関係のもとで本市の限りなき発展を図ってまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 飯田義男君。

◎28番（飯田義男君） 私は以上の質問に対する再質問はいたしません。しかしながら、最後に一言御要望を申し上げておきたいと思います。

市長さんは初めて市長になられて、一市民として市長という立場では理想と現実とが非常に違う面もあろうかと思います。しかし、これからいろいろと勉強をなされて、自分が考えたこれだけはやらなきゃいかぬというビジョンはあくまでもこれから強力に実行していただくような決断をしていただきたいと思います。

市長さんは長年にわたって教育に力を注いでこられて、すばらしい知識と才能を持っておられて、その実績は顕著なものがありますけれども、市の行政についてはまだ経験もなく、初心であります。反面、未経験の中から生まれるフレッシュな創造力に期待する者もおります。ともかく、これから市民とともに研さん、努力していただかなければなりません。

考えれば、あなたには600人になんなんとする優秀な部下、職員がおりま

す。1つの団体組織は、その部署を担当する職員の能力を最大限に機能させることによって向上し、仕事に対する情熱を持たせることによって成果を上げることができると思います。市政に対する使命感が全職員1人1人にも伝わって、組織に活力を与えて市民の信頼に応えるフレッシュな市政が展開されることを心からお願いをして、私の質問を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で28番議員飯田義男君の質問を終わります。

次、3番議員田沢勝信君。御登壇願います。

（3番議員田沢勝信君登壇）

◎3番（田沢勝信君） 質問に先立って、故半澤良一氏の御逝去を悼み、心から御冥福をお祈り申し上げます。

さて、既に通告してございます6点にわたり順次御質問を申し上げます。

私は質問の第1点目に、中央保育園の入所年齢制限の問題と、今後この入所年齢制限を見直しできないものか、市長の見解をお伺いしたいと思うわけでありまして。御承知のとおり、中央保育園は市の中心部にある保育園でございますが、3歳までの乳幼児しか入所を認めておりません。他の地区の保育園にはない異例の入所制限を行っているわけでありまして。したがって、4歳からはほかに入所がえしなければならないわけでございます。入所がえというのは幼い子供たちにとっても働く婦人の方々にとっても大変つらく、何とか他園と同様に4、5歳児まで預かっていただける保育園にしていきたい、そういった切実な訴えをここ数年間耳にしていまいりました。私はこの問題について当議会本会議でも、あるいは委員会でもたびたび取り上げてまいりましたが、婦人の社会参加は時代の趨勢と言ってもよく、建設後16年を経ようとしている中央保育園のあり方について再検討すべきときにあるように思うわけでありまして。

そこで、具体的にお伺いいたしますが、まず第1にどのような理由から中央保育園にのみ入所年齢制限を設けるようになったのか、その経緯について御説明をいただきたいと思います。

次に、第2に平成2年の乳幼児の入所がえ及びその後の進路はどのようになっているのか、問題はないのか、どのようにお考えになっているのか、市

長の感想を含めてお尋ねをしたいと思います。

その上で第3点として、中央保育園の現状のあり方は再検討されなければならないと思うわけでありますが、市長さんはどのように考えておられますか、市長の見解をお示しいただきたいと思います。

次に、質問の第2点目に移ります。私は質問の第2点目に旧館山幼稚園の跡地利用に関して市長の基本的姿勢をお伺いをしたいと思います。これまで旧館山幼稚園の跡地は市の公共事業の代替地として利用するというのが市の基本方針として示されてまいりました。この従来の基本方針に問題はないのかどうなのか。この跡地利用について、少なくとも館山幼稚園関係者はもとより、当該学区の市民の声をよく聞いた上で基本方針を決定すべきではないのか。率直に申し上げるならば、跡地利用に関する従来の市の基本方針は市民の声を聞いておらず、現実的にも、また将来にわたっても館山幼稚園を活用される当該学区の市民を無視した方針と言わざるを得ないわけであります。

その理由について幾つか述べたいと思います。本年10月30日、この問題について、保護者の方々の案内で旧館山幼稚園の跡地がどのように利用されているのか現地を調査する機会がございました。通園学区が大変広く、園児数も市内最大規模のものうちの1つであり、しかも車による園児の送り迎えが大変多く、跡地が園児の送り迎えのための一時的駐車場として整然と利用されておりました。そのため、園の両門に通じる狭い道路での路上駐車もないため、交通渋滞もなく、交通安全上もこの跡地が大変有意義に活用されているというのが現状であります。なぜこういった現状を無視してこの跡地を市の公共事業の代替地として利用していくというのか、その基本方針は納得できません。旧館山幼稚園跡地は園児の送迎対策地として将来にわたって確保すべきだと思うのであります。

そこで、この跡地利用について新市長の御理解を深めていただくため、質問を具体的に行いたいと思います。まず、学区内通園の最大距離はどのようになっていますか。車による送迎もやむを得ない理由があるのではないのか。また、園児の送り迎え方法の現状、例えば車、自転車、徒歩など送り迎え方法の現状はどのようになっているのか明らかにして論議を深めてまいりたい

と思います。

次に、市はこれまで跡地利用について市の公共事業の代替地として利用するという方針をとってきましたが、この跡地が園児の送り迎えのための一時的駐車場として利用できなくなるとすれば、周辺道路の渋滞、交通安全上も大変な問題が出てくることは明らかであると思われますが、どのようにお考えになっておりますか、新市長のこの跡地利用についての基本的な考えを示していただきたいと思います。

次に、質問の第3点目に移ります。質問の第3点目は、館野、九重のいわゆる水道未給水地区での飲料水対策について市の対策をお伺いしたいと思います。館野、九重地区への水道設置についてこの議場で再三再四論議が闘わされてまいりました。振り返ってみますと、その水源をどこに求めるのか、市行政の側としても議会としても苦渋の歴史だったというように思います。水源を地下水に求めようとした計画も、給水管布設工事予算まで計上しながら、地元住民の同意が得られず挫折をしましてまいりました。その後、三芳水道の福沢ダム建設計画に館野、九重地区を給水計画区域に取り込んでいく計画も、約3億の水源開発予算を投資しながらも、リゾート開発の関係から取りやめになりました。そして、現在計画は県水導入による用水供給事業の中で平成7年には館野、九重の水道実施という計画になっているわけでございます。行政としてこの地区に水道設置を約束してから今日まで6～7年、そして現在の計画からいってもその実施は今後5年後であります。こうした経緯を振り返ってみるにつけ、この地区の未給水地区問題に対する行政、議会の責任の重さを痛感せずにはおられません。この間、地元の皆さんからは飲料水確保のための自己解決も限界に達しているという訴えもございました。早期水道設置を実現し得なかった行政の責任からいっても、飲料水確保に向けた市の対策が必要と思われます。

そのような観点から御質問を申し上げますが、まず第1に、この未給水地区で飲料水確保のために新たに井戸を掘り下げた、あるいは井戸水の原水のままでは水道法による飲料水基準に達しないもの、そのおのおのの解決のための各自の負担はどのようになっているのか、調査があればお聞かせ願いた

いと思います。

次に、市の対応策はどのようなことを実施してきたのか、今後の具体的対応はどのようなことを考えているのかお聞かせ願いたいと思います。

次に、質問の第4点目は、来年度実施予定の平成3年から5年まで適用される固定資産評価がえに当たって市長の基本姿勢をお伺いしたいと思います。御承知のとおり、この3年間土地の値上がりは異常としか言いようがない値上がりが続いてまいりました。特に、千葉県は東京近郊の都市という性格に加え、リゾート法によって県下全域に地価の高騰が広がりました。そのことは昨年千葉県が7月1日時点で行った県内地価調査発表でも明らかであります。

ちなみに、その時点での館山市の地価の上昇率は、県平均上昇率23.9%に対し、この平均を大きく上回る49.8%の上昇率でありました。これは県下80市町村中17番目の上昇率であります。各新聞社も房総南部で急上昇、あるいは富浦で84.8%の暴騰、そして地価暴騰の原因について、リゾート開発が影響と大きく報道されたことも記憶に新しいことでございます。リゾート開発に伴う国、県の地価対策の対応のおくれがこのような南房総の地価高騰を招いていることは明確だと思います。

さて、固定資産税はその資産に着目して課税されるわけですが、市民の生活に最小限必要な住宅、あるいは店舗や町工場などの併用住宅地などは、土地の評価額が上がっても何ら具体的収益が出るものではありません。そういった点からいって、固定資産の評価がえに当たっては、リゾート開発に伴う国、県の地価対策のおくれを原因とした地価の異常な高騰を一般市民の土地評価に反映させるようなことは絶対にあってはならないと思います。

そのような観点から御質問申し上げるわけですが、第1に館山市の次期固定資産評価額の平均上昇率はどのようになると予測されておりますか、明らかにしていただきたいと思います。

次に、第2に、市民生活に最小限必要な住宅、あるいは店舗や町工場などの併用住宅など、土地評価が上がっても具体的収益が見込まれない資産評価に当たっては特段の配慮が必要と思われるが、どのようにお考えですか。

そして第3に、一般住宅用地及び小規模住宅用地に対する固定資産税の軽減のための特例措置の強化を国に働きかける必要があると思われますが、市長の見解をお伺いしたいと思います。

次に、質問の第5点目、館山駅前東口周辺整備について市長の基本的な所見をお伺いしたいと思います。館山駅前東口周辺は、買い物環境の悪化による都心商業地の停滞、駅前でありながら空き地が多く、現在暫定的な駐車場等に利用されているなど土地の有効な利用が図られていない。あるいは道路網の未整備、または歩道が設置されていない道路が多く、歩行環境も大変悪化しているというのが現状ではないかと思います。そういった課題の克服のために駅前周辺整備計画の推進をこれまで計画してきたと思うわけですが、新市長の館山駅前東口の現状認識と駅前東口周辺整備に関する基本的姿勢を改めてお聞かせ願いたいと思います。

さらに、これまで市が進めてまいりました東口再開発計画については地権者あるいは議会でも賛否両論さまざまな論議がされてまいりました。そういった経過を踏まえた上でお尋ねしたいのですが、新市長はこれまでの再開発計画を推し進めていくのか、あるいはまた計画を見直して進めていくのか、ここが肝心でありますから、市長の見解を明確にしていきたいと思います。

最後に第6点目、新市長が市民に公約されたいわゆるオンブズマン的制度の導入についてお伺いをしたいと思います。先ほど神田議員の質問もございました。この制度の導入は、今市長選挙に当たって庄司市長のみの公約であり、新市長の政治スタイルを考える上でも極めて特筆すべきものと考えております。

そこで、質問が重複をいたしますが、あえて御質問を申し上げます。執行される市行政が本当に市民の利益にかなっているのかどうなのか、その市民の声をもとに行政の点検と監視について、そのことを行政制度として実施し得る権限と身分を与えた制度、これがオンブズマン制度の要点だと思います。議会は議会として、また会計監査はそれとして行政をチェックし、市民の声を正しく行政に反映させる責務を持っているわけですが、オンブズ

マン制度の特徴はそのことを日常的な行政制度として行うことにあると思います。そういった意味で、新市長の公約であるオンブズマン制度の導入には賛意を表するものでありますが、新市長はこの公約に当たって、オンブズマン制度の導入とは言わず、オンブズマン的制度の導入と言葉を選んでいる様子がうかがわれます。

そこでお尋ねしたいと思うのですが、新市長がオンブズマン的制度を導入しようという趣旨は何であるのか、またオンブズマン制度の導入と言わず、オンブズマン的制度の導入と言ったのはどのような内容なのか、改めて見解をお聞かせ願います。

以上6点にわたって御質問を申し上げましたが、答弁により再質問をいたしたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 田沢議員の御質問にお答えいたします。

第1点目の中央保育園の入所年齢制限の問題と今後の見直しについての御質問でございますが、まず中央保育園の措置年齢を3歳未満とした経緯についてでございますが、これは市街地で働く婦人層あるいは職場の代表から乳児保育及び長時間保育について要望を受け、また当時行われていなかった2歳未満児の措置に対する要求に応じて設置されたものでございます。

次に、平成元年度末に中央保育園から転園した19名の現状でございますが、館野保育園へ7名、純真保育園へ2名、ユネスコ保育園へ5名、キリスト保育園へ3名、アンデレ保育園と九重保育園へ1名ずつ転園いたしました。

次に、中央保育園の将来に対する基本的な考え方でございますが、設立の趣旨及び措置の現況を考慮いたしまして、このまま乳児保育所として継続してまいりたいと考えております。

第2点目につきましては教育長より御答弁を申し上げます。

第3点目の館野、九重地区の飲料水対策についての御質問でございますが、御指摘の井戸掘り下げ件数等の把握はしておりません。

なお、この両地区につきましては、平成元年12月から平成2年6月までの

間、延べ 108カ所で飲料用井戸の水質検査を実施いたしました。その結果、市における省略検査では、飲料に適合するものが冬期で54カ所中14カ所、同じ採水箇所では梅雨期が54カ所中19カ所と水質に変化が見られました。一方、飲料に適合しなかったものが全体の7割近くもありましたが、これは主に色度、濁度、細菌類によるものでございます。この分析結果により、除去対象別の浄水方法、水処理機器の設置例等についての指針を作成し、両地区の水道整備促進会に持参いたし、検査結果の報告、浄水方法及び今後の上水道の拡張計画について、地区説明会の日程調整をお願いいたしましたところでございます。

第4点目の固定資産の評価がえに伴う上昇率と小規模住宅用地についての御質問でありますが、御案内のとおり基準地につきましては10月30日に公表され、館山市は7.9%の上昇率となっておりますが、全体の平均上昇率は基準地の上昇率を勘案して現在県で検討しており、1月下旬ごろに指示平均価額として示される予定でございます。

次に、小規模住宅用地につきましては、地方税法第349条の3の2の規定により、4分の3を軽減する措置がとられているところでございますが、この小規模住宅用地についての特例措置の強化を国に働きかけたらどうかとの御意見につきましては、確かに小規模の住宅用地は納税者の負担増とならないことが望ましいわけでございます。したがって、全国市長会を通じ、個人の住宅用地について急激な税負担の増をもたらすことのないように適切な措置を講ずるよう、平成3年度税制改正に向けて国に要望しているところでございます。

大きな5の小さな第1点、東口地区の状況をどのように認識しているのか、再開発等の整備を必要と考えているのかとの御質問でありますが、館山駅東口地区におきましては、道路条件が悪く、土地の高度利用もおくれ、商業、業務機能の低下、生活環境の阻害等都市環境の悪化が見られることから、その改善を図り、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図るため、再開発等を含めた市街地整備が必要であると考えております。

小さな第2点目といたしまして、整備計画を今のまま進めていくのか、ま

た修正をしていくのかとのことでございますが、今までと同様に館山駅前地区市街地整備基本計画調査等を踏まえまして、地元権利者と調整を図りながらその整備を推進してまいりたいと考えております。

大きな6につきましては、先ほど神田議員にお答えしたとおりでございます。今後市民の声を反映して明るい行政を推進するために検討してまいりたいと存じます。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えいたします。

大きな2の旧館山幼稚園跡地の利用についての御質問でございますが、市内の各幼稚園の園児の通園に際しましては保護者が送迎することになっておりまして、その送迎の方法につきましては保護者の判断に任されておりますが、現在館山幼稚園の園児の通園方法といたしましては、自動車による送迎が120人、自転車74人、徒歩43人となっており、このうち通園距離の一番遠い地区は大賀地区の3キロメートルでございます。自動車で送迎をする場合は、旧館山幼稚園の跡地を適宜駐車場として利用させていただいております。

なお、跡地が代替地として提供されたような場合、館山小学校の用地を利用する等多方面にわたり検討をしてまいりたい、このように考えております。

御答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 中央保育園の問題について幾つかお尋ねをしたいと思っておりますけれども、先ほどの答弁ですと、現在のままで乳幼児のための保育園にしていくんだ、年齢を見直す考えはないんだ、そういった答弁であったかと思っております。私は非常に問題があり過ぎるんじゃないかというふうに思っています。先ほど入所がえの現状を答弁いただきましたけれども、19名が4歳児になって退園をして、そしてさらにその19名の皆さんが館野とか、あるいは民間保育園に入所がえをする。実はここが市民の間で問題になっているわけでございます。それで、何とかこの年齢制限を直してもらえないかという

ふうに要望しているわけなんです。再三議会でも取り上げてまいりましたけれども、一体全体執行部の皆さんはこの入所がえの現状についてどのようにお考えになっておりますか。これでいいんだということですか。その辺のお考えを示していただきたいというふうに思うんです。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 中央保育園からほかの園に移るのがいいかどうかということでございますけれども、この中央保育園については、先ほど市長が申し上げましたとおり、当初から3歳までということでスタートしたわけでございます。そういうことで、施設面——主に施設の面でございますけれども、施設の面から申し上げましても、非常に4歳児、5歳児入れるのは無理でございます。田沢議員さんのおっしゃるほかの園ではそういうことをやっていないのにと御質問でございますけれども、設置上の制約と申しますか、そういうことで今のままの施設では無理だということでございます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） そういうことを聞いているのではないんです。毎回そういう答弁あるわけですが、ある童話の中に王様のベッドに合わせで人間の足を切る、そういったお話がありますけれども、まさに皆さんの考えはその考えと同じです。建設当時3歳児までの子供さんを預かる、そういう計画で保育園をつくったんで、今後将来的にもそうしていくんだ。実際市民は、せっかく保育園に入れるわけですが、途中で入所がえをしなければいけない。本当に大変なんだ。私も経験ありますけれども、預ける側にしてみますと、5分時間が違うと大変なことなんです、これは、職業を持っている人ですから。そういったことで何とか改めてほしい、こうやって言っているわけです。

それで私も——恐らくこれ50年に建設されたと思いますから、常識的に言えば、大体木造ですから20年が耐用年数だ、こう考えてもいいと思います。今日16年です。16年間も足切りをやってきたわけです。耐用年数もそろそろ来るから、それに合わせて再検討をする必要がないのか、こうやって今言っ

ているわけです。それに対して全然そういう考えはない、これではおかしいんじゃないですか。いかがですか。私は耐用年数を考えてやはり4、5歳児まで——中央にある保育園ですから、郡部じゃないです。館山市の中心部にある保育園です。この中心部の保育園が3歳児までしか預からない、こんなばかな話がありますか。耐用年数を考えてやはり4、5歳児まで預かれるような保育園にしていって、なぜこういった考えを持ってないんですか。いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 耐用年数のお話が出ましたけれども、先ほど申し上げましたとおり、現在の中央保育園は主にウィークポイントが広さにあるわけです。園庭についての最低基準、そこらあたりから——園庭基準については、現在の中央保育園の面積は338平方メートルあるわけでございますが、基準が1人当たり3.3平方メートルということで、102人という基準上可能な人員になっておるわけでございます。そういうところから、現在87名——これは12月現在ですけれども、入園児童がいるわけでございますので、ここらあたりからも無理だということでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） ちょっと論議にならないんですが、確かに建設当時、あれはたしか2歳児まで最初は預かって、途中から要望があって3歳児までその年齢を広げたんじゃないですか。そういった経過があると思います。私が申し上げているのは——狭いから見直さないんだ、現在の施設では。それはそのとおりです。そのとおりだと思います、私も。問題は、建設後もう16年もたっているわけですから、木造ですから、恐らく新市長さんの任期中のうちに今後どうするかといった方向を決めなければいけないと思うんです、新市長さんは。現在のままでいいのかどうなのか、耐用年数も来ますから。そういった意味であえてお尋ねをしているんです。新市長さんにこれ以上聞くのもあれですから、市長さん、この現実を十分に踏まえた上で市長さんの決断を職員に示していただきたいというふうに思うんです。

それで、2番目の質問に移ります。これは教育委員会にもう一度お尋ねしたいんですが、先ほどの答弁ですと、あの跡地が代替地として使われた場合にほかを考えていく、駐車場を考えていく、こういうことですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 教育長。

◎教育長（福原 修君） 跡地は現在のところ教育財産から一般財産に変わりましたものですから、私たちの管理にないわけです。したがって、市長部局の考え方によりましては代替地になる可能性があるわけです。そういう場合にはどうしたらいいかということを私たちは今考えているわけでございまして、なるべく代替地として利用されぬようそのまま残しておいていただきたいというのが私たちの希望でございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） この跡地をどういうふうに使っていくのか。権限がある責任者が答えてもらえませんか。私は今まで、あれは公共事業の代替地として使うんだ、これは余りにも現実を無視していますよ。あそこがなければ恐らく幼稚園の送り迎えの車が道路に渋滞します。非常に狭い道路です、東西の門に通じる道路が。それで、普通財産じゃなくて——普通財産でも結構なんです、代替地方針を変更して従来どおり駐車場に使えるようにすべきだ、きちんと方針を決めるべきだ、そういうふうに——こうやって質問しているわけです。権限がない教育長さんから答弁いただいてもしょうがありませんから、権限があるところが答えていただけませんか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 幼稚園の跡地問題でございますけれども、この問題について、今まで市の代替地ということで予定しているということで、今のところ方針の変更についてはまだ——そのままでございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 教育委員会ぜひ頑張っていただきたいと思います。現状はあの駐車場がないと非常に父兄が困るんです。関係者も困るんです。地区の皆さんも困るんです。それで、教育委員会にあのまま駐車場として使

えるようにぜひ頑張ってもらいたい。

もう一点は、市長さんにお尋ねしたいと思うんですが、少なくとも私は跡地を利用する場合に、それを現に利用されている地区の皆さん、保護者会の皆さん、学区内の皆さん、相談をすべきだと思うんです。私は新市長さんにそういったことを期待しているわけですが、いかがですか。この跡地を利用する場合に地区の皆さんと十分に相談をするというお考えはございませんか。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 方針については今のところそういうことになっていますが、田沢議員の質問に対しまして検討は今後していきたいと思えます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 十分検討して、ぜひ関係者の方と相談をしていただきたい、こういった要望をしておきたいというふうに思います。

それと、館野、九重の飲料水の確保のための問題なんですが、正直言って先ほどの報告を聞いておりました私もびっくりしております。いわゆる水道法に基づいて言えば、いわゆる飲料水としては不適というのが7割もあるんだ、そういう調査結果が出たんだということでございます。それで、神田議員の質問もございましたから、水質検査を無料にするかどうかということについては検討していくということでしたので、ぜひ検討はしていただきたいというふうに私も思います。

もう一点、いわゆる調査をして、飲料水としては不適なのが7割もあった。それで、その対策について、浄化の方法とか浄化器具どういふのがあるとか、そういった指針をつくって促進会の方に報告をしてあるということでした。私は――これは担当が水道課ではないと思うんですが、今までも論議がありましたけれども、水が出なくなって井戸を掘り下げた、あるいは浄化装置を買うにしても個人の負担ではもう耐え切れない、こういった論議もあったと思うんです、この議場の場で。そういった面に対して市の方からきちんと補助をするなりということは考えられませんか。私がこういうことを申し

上げるのは、館野と九重に水道が大変おくられているわけですが、これは行政の側としても議会の側としても責任があるんです、やっぱり。そういった立場から、先ほどの水質検査の無料化とか今私が申し上げた浄化装置の補助とか、そういったことを考える必要があるんじゃないかというふうに思うんですが、いかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆる浄水器と申しますか、その補助についてどうかという御質問と思います。この浄水器も——先ほど水道課長の方からも話がありましたけれども、私どももいろいろ浄水器についても若干勉強してみたわけですが、これはやはり菌を殺すといいますが、そういう——きれいにするというのが今一般に市販されているもので、なかなかこれもいわゆる管理といいますが、中をかえないとかえって雑菌が入ってしまって管理上難しくなったり、また水をかえって汚染するというようなことも県の方からもちょっと伺っているわけですが、この市の補助、また未給水地に限ってどうかというような議論あると思いますけれども、若干勉強した中ではやっぱりそういうふうな問題点もあるわけですが、これから一応そういうものの積み重ねで、水道課等とも相談しながら一層勉強してみたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 十分勉強して対応していただきたいというふうに思います。

次に、東口の再開発の問題について、これは市長さんまだ新しいですから要望にとどめたいと思うんですが、現在の開発計画については地権者の中で賛否が両極端に分かれているわけです。議会の特別委員会の方で両者の皆さんにお会いをして意見を聞いてまいりました。なるほどなと思う点もあります。そういった意味で、新市長さんにはぜひこの方々と直接的にお会いしまして、ぜひ意見を聞きながら進めていただきたい。これは要望でございます。

次に、最後のオンブズマン制度、これも十分検討していきたいということなんですが、市長さん、率直に言ってオンブズマン制度を御存じですか、ど

ういう制度か。大変失礼な話なんです、御存じですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 市長公室長。

◎市長公室長（錦織 茂君） 市長の言われますオンブズマン的制度の導入でございますけれども、これは多くの市民の声が反映される明るい行政を推進するための制度でございます、具体的には今後検討をしていきたい、このように考えているわけでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 私も困っちゃうんですけれども、オンブズマン制度、これは行政制度としてあるんです。川崎でやりましたけれども、身分は助役さん以上の身分を保障しています、賃金保障を含めて。しかも、権限が大変強いんです。権限を与えているんです。そして、行政制度としてそういうことを設けるわけでしょう。これも市民の意見を反映させる制度の1つではあるわけですけれども、市長さん、率直に言って最初に公約に掲げたオンブズマン的制度、これは言ってみれば各地域で懇談会みたいなことを開催をして、それで市民の声を行政に反映させたい、そういった意味でおっしゃったんじゃないですか。いかがですか。市長さん、十分勉強をなされて、ぜひ公約を破らないようにしていただきたい、そのことを要望をしておきたいというふうに思います。

それから、最後に固定資産税の関係で、小規模住宅の固定資産税が急に上がらないように全国市長会を通じて国に要望する。大変ありがたいことだなというふうに思っています。

もう一点細かいことをお尋ねしたいんですが、前回63年に評価がえがあったわけですが、62年の12月に実は同じ質問を私やっているんです。そのときに、63年度の固定資産税の平均上昇率、市内の、その見込みはどうかというお尋ねをしたんです。そのときは市長さんは平均3%ですと明確にお答えになっているんです。今回は何か県の方から云々で1月にならないとわからない、こういった答弁なんです、どこが違うんですか。前回は3%ということで12月議会で予測を発表しているんです。答弁しているんです。ことは

どういふわけか来年にならないと見込みも立てられない。どういふわけですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 暫時休憩します。

午後2時19分 休憩

午後2時26分 再開

◎議長（渡辺昭夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 指示平均価格でございますけれども、市長からお答えしましたように1月下旬ごろということでございまして、まだ現在市の方に届いてございませんので、パーセンテージというお答えは今現在うちの方ではできないという状況でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 田沢勝信君。

◎3番（田沢勝信君） 市長さん、今質問を聞いておりまして、市長さんが判断しなければいけない、決断しなければいけない大変多い課題があるということがおわかりいただけたというふうに思います。私どももある意味では選挙で争う立場にございましたが、市長さんの公約された政策十分拝見をしてまいりました。また、何よりも新市長さんに市民が期待されている声よく聞いてみますと、十分自分たちの意見が聞いてもらえるんじゃないか、そういう期待が大変大きいというふうに私も思っています。どうか市長さん、精いっぱい勉強されて、決断しなければいけないことは決断しなければいけないというふう思います。そういったことを十分なされて御活躍をされることを期待を申し上げて、私の質問を終わりたいと思います。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で3番議員田沢勝信君の質問を終わります。

次、13番議員山中金治郎君。御登壇願います。

（13番議員山中金治郎君登壇）

◎13番（山中金治郎君） 大分時間が経過しましてお疲れでございましょうが、しばし御辛抱いただきたいと思います。発言のお許しを賜りましてまことにありがとうございました。

まず、質問に先立ちまして、先日急逝されました故半澤市長の御冥福を心

からお祈りを申し上げます。

質問に入ります。私は民主クラブを代表いたしまして、庄司市長が就任早々であり、まことに申しわけないと存じますが、さきに通告いたしてごさいます市政における基本的な考え方について3つの視点からお伺いを申し上げたいと存じます。もちろん就任後の日数もわずかでございますので詳細な御答弁は求めませんが、これから先市政を運営していく上で、また私どもが御協力を申し上げる上からも、市政運営の基本的な姿勢、方針や考え方などについて率直な、かつ明快な御答弁をお願い申し上げる次第でございます。

さて、第1点の多くの公約を実施していくには膨大な財源を必要とすると思うが、どのように実施していくのかという点であります。市長さんはさきの市長選を通して多くの公約をお持ちのようではありますが、これらを完全に実施する上には恐らく数百億円の財源が必要であろうと思います。

平成元年度の決算カードで考えますと、経常収支率は63年度より4.2%低下し、73.9%ということになっており、投資的経費の財源としては、経常一般財源より経常費充当一般財源を差し引きますと約20億3,400万円ほどになりますが、これを全部政策的な経費の財源とすることはできません。このうち、例年的に実施しなければならない事業費に、適債事業であれば起債を起し、国、県の補助事業に当てはめられれば補助を受け、実施しなければならない最低の投資的事業費があります。これらの財源を差し引きますと、政策的経費として使用できる財源は約4億か5億程度ではないかと思われます。このように苦しい財政構造の当市では、思い切った発想の転換と事業主体の多様化、事業年度の計画、十分な進行管理等々の事柄をクリアしていかなければ画竜点睛を欠くうらみがあります。

さらにまた、地方自治の政治的信条として、リンカーンの言葉に住民のための住民による住民の政治という言葉があります。この住民という言葉にはある程度の数量的な広がり内蔵されている概念であります。とかく特定の何人かのために行われることが往々にして世の中には多く見受けられます。したがって、その事業の実施には、広く周知を集め、周到な用意のもとでなされなければならないと考えます。

このような観点から、市長さんは一体何年ぐらいでどのような方法で実施をなさる計画かお伺いいたしたいと存じます。

次に、第2点として、類似市と比較し予算、財政規模の小さい当市では、まず担税力の培養のため経済の振興が図られなければならないと思いますが、これに対してどのように考えるかという点であります。

この数値は私が前市長に対して行いました通告質問の際に用いたものですから再度用いますが、内容は東洋経済新報社の都市データブックの89年度版に掲載されたものです。61年度決算の数値でちょっと古くなりますが、これによりますと、人口5万5,000人台の市が全国で7市ありますが、このうち人口では第3位、決算額では6位、財政力指数では5位に位置しておりますが、公債費比率では18.7%、これは第1位で、最下位の埼玉県鳩ヶ谷市の8.1%と比較しますと倍以上の高い率でございます。一方、最も市の底力と言われております工業出荷額は、機械が74億、食料品が48億、その他を合わせて282億で、この7市中で最下位であります。1位は佐賀県の鳥栖市で2,382億で、当市の8倍半も出荷額がございます。都市データブックの数字でなくとも、決算カードの元年度分で県下の各市と比較してもその傾向はおおよそ同じであります。これらを総合的に考えますと、当市の当面の課題は、将来の市民の担税力を培養するために産業投資額の大幅の増額以外にはありません。

この1～2年当市も市税収入の構成率が上昇してまいりましたが、これは特定企業の進出による分と、地方中核的都市の傾向として官公署の勤務者の多いために市民税額の上昇分であり、市の独自の施策によるものではなく、反面国の税、財政制度の改廃や国の経済状況によっては大きく崩れる危険度さえはらんでいると考えることができます。さらに、このような財政構造の上に、適債事業であればどんどん起債を起し、予算計上に当たっては歳入を低く抑えて計算、ために、歳出計上には財源がないということで事業を拒否し、決算に際しては4億も5億も繰り越すべき財源を出す。さらに、元年度分で申し上げますと、新たに8億3,400万円余りを借り入れし、借入金返済のために12億200万円足らずを公債費として計上、繰越金として5億6

、000万円余りを出しているような財政運営は改めていかなければならないと
考えます。そのためにも自主的財源を一円でも多くしなければなりません、
これには経済の振興策をより多く実施していく以外には道はないと考えられ
ますが、この点について市長さんはいかなるお考えをお持ちでしょうか、お
聞かせ願いたいと存じます。

次に、第3点でございますが、財源の効率的運営のため、現在の諸事業の
すべてにわたり見直し、整合性のある市政運営を希望するが、どう考えるか
ということでございますが、ただいま申し上げましたとおり、市の財政は極
めて困難な状態であるように考えられます。したがって、市長さんの公約実
施のためには、短期的に見た場合には、現に行われている市の各事業のすべ
てにわたって見直しの作業を行い、不急事業の延期、手法の改善、投資効果
の少ない事業等々を繰り延べるなどにより財源の捻出をすることが緊急の課
題であろうと存じますが、これについて市長さんはいかなるお考えをお持ち
でしょうか、改めてお伺いいたしたいと存じます。

以上3点についてお伺いいたしましたが、市長さんの率直な御所見をお聞
きいたしたいと存じます。

御清聴ありがとうございました。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 山中議員の御質問にお答えいたします。

大きな1の小さな第1点目、限られた財源の中で事業の実施をどのように
進めていくのかとの御質問でございますが、まちづくりは地域の特性を生か
しながら、事業の実施のための財源確保を踏まえて長期的視点に立ち、計画
的に進めるべきものと考えております。したがって、長期的に取り組む
べき問題、あるいは短期的、また速やかに対処すべき問題を厳しい優先順位
の中で選択しながら進めていく所存でございます。

次に、小さな第2点目、類似市と比較し予算、財政規模の小さい当市では、
まず担税力培養のため経済振興が図られなければならないと思うが、これに
対しどのように考えるかの御質問でございますが、自主財源の涵養を伴う地

域経済の振興は最も大きな課題であり、今後都市基盤整備や生産基盤整備を含めて積極的に取り組んでまいりたいと考えております。そのためにはそれらに投資する財源が必要となるわけですが、課税客体の正確な把握や収納率の向上等市税収入の増収対策や国、県支出金の確保、さらに地方債の有効利用に努めてまいりたいと考えております。

地方債につきましては、従来から財政力の比較的弱い当市にあっては、勢い投資に係る財源調達的手段を地方債に依存せざるを得ない状況にあったわけですが、今後とも地方債が持つ本来の機能を生かし、財政の健全性を損なうことなく、その運営に弾力性を持たせながら地域経済の基盤を涵養し、将来の住民福祉に寄与すること、また都市基盤整備のように単年度の住民にのみそのしわ寄せが来るのではなく、後年度にわたって住民負担の均衡を図るという見地から有効に活用してまいりたいと考えております。

次に、繰越金についての御見解でございますが、山中議員が御指摘のとおり、平成元年度の財政状況調べによりますと、館山市の実質収支はおよそ5億3,500万円の決算剰余金となっております。ちなみに県下28市の状況でございますが、それぞれ人口や面積、財政力等地域の置かれている状況が違いますので、一概に比較するのはいかがかと考えますが、館山市より決算剰余金が少ない市は6市で、富津市5億3,300万円、東金市4億8,800万円、佐原市4億2,100万円、勝浦市3億9,900万円、八日市場市3億5,000万円、鴨川市3億2,800万円となっております。いずれにしても、この決算剰余金は各年度の経済情勢による市税収入の動向や臨時的収入等との関係があり、また次年度以降の財源として活用しているところでございますので、御理解をいただきたいと存じます。

次に、小さな第3点目、財源の効率的運営のため、現在の諸事業のすべてを見直し、整合性のある市政運営を希望するが、どう考えるかとの御質問でございますが、地方財政運営の基本は財政の健全な運営であり、そのことは長期的に見て、収支の均衡を保ちながら多種多様化、増大化する住民の行政需要に的確に対処することだと認識しております。したがって、常に財政構造の弾力化に配慮する等健全財政の維持を基本といたしまして事務事業

を見直すとともに、行政の簡素効率化や自主財源の確保等なお一層の行財政改革を進めてまいりたいと考えております。

なお、事業の実施に当たりましては、長期的な展望に立ち、優先順位の厳しい選択の中で、財源の重点的、効率的な配分を行いながら、南房総の中核都市として機能するバランスのとれたふるさとづくりを推進してまいりたいと考えております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 山中金治郎君。

◎13番（山中金治郎君） 再質問はお聞きすれば幾らもございますが、本日は市長さんが就任早々でありますので、再質問ではなくて、要望という形で発言をいたします。

1番目のまちづくりは地域の特性を生かしながら、事業実施のための財源確保を踏まえて長期的視点に立ち計画を進める等とございますが、これは当然でございますが、実施される事業が——この質問の中で申し上げましたが、特定の人だけのものではなくて、大勢の住民のための事業という考え方でひとつ実施をお願いをいたしたいと思います。

2番目の自主財源の涵養を伴う地域経済の振興は最も大きな課題であるということで、これは経済政策優先と私受けとめますが、財政事情が厳しい館山市が最大の効果をねらう事業の選択、当市にはこれは大変な勇気が伴うものと思います。これは私常々考えておりますが、首都圏に集まる人、また成田空港におり立った人が館山市を目標にしてくれるような、これは奇想天外なことを私は考えるべきじゃないかと思います。これは特に館山市は財源が余りありませんので、何百とか何千とかということ考えられない。せいぜい10億単位の投資であろうと思いますが、そのお金でやはりこれは世界規模の観光資源というもの、これはないわけではない。

これは私は以前から言っておりますが、この海の中から世界一の規模の100メートルの大噴水を3本ぐらいぶち上げる。これは私の25年——これは夢です。しかし、こういうのも1つの私は資源開発だと思います。夜100メートルの上に色が変わったすばらしいにじが上げれば、これは大変なことです。

電気料がかかりますから何時間も上げることはない。夜30分かそこら上げりゃたくさんです。特急の終電車が出てから上げればそれでいいんです。館山へ泊まんなくちゃ見えないんだということであれば、泊まる人がふえてくる。よし、館山へ泊まろうということになれば、皆さんが銀行のお金を使ってでもこれは設備投資をするということになりますので、そういったひとつ観光資源の開発をお願いをいたしたい。

それと、3つ目の財政運営の基本は財政の健全なる運営である云々とございますが、これはそのとおりでございますが、これはほかに財源を必要とするときは、これは不急事業を見直す、また、手法の改善とか投資効果の少ないものはちょっと我慢してもらって財源に充てるというようなことをすべきではないかと思います。

要は政策の転換を図ることは、これは並み大抵ではございません。しかし、このたびは執行者がかわりまして、新しく庄司市長さんが就任をされたわけでございますので、私はこの手法を変える絶好のチャンスじゃないかと考えております。この際思い切った産業重視の政策を実行していただきたい。市民経済がこれ豊かになりますれば、税金の自然増収が図れます。収入がふえてくれば予算規模は拡大をして、市長さんが公約されたようなことはもちろんでございますが、先ほどから各議員さんがいろんな要望を申し上げております。それらのことも予算規模が拡大をして財源が確保できればすべて実現できるわけでございますので、この議会も非常にスムーズにおとなしくされるというわけでございます。

ですから、再度申し上げますが、先ほど申し上げましたように首都圏に集まる人が館山市を目標にしてくれるような、そういうような資源開発をぜひともお願いをしたい。市長さんは勇気を持って、思い切った産業重視への市政の転換を図ってくださるようお願いを申し上げまして、私の質問を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で13番議員山中金治郎君の質問を終わります。

暫時休憩します。

午後2時50分 休憩

午後3時12分 再開

◎議長（渡辺昭夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、1番議員脇田安保君。御登壇願います。

（1番議員脇田安保君登壇）

◎1番（脇田安保君） 最後になりましたけれども、ひとつよろしく願います。

質問に先立ちまして、故半澤前市長さんの御冥福をお祈り申し上げます。

私は既に通告してございます諸点について御質問をいたします。先般本会議での冒頭において新市長さんは所感を述べられておりました。庄司市長さんは市長になられる以前からも館山の将来を案じられていたと伺っています。そして、11月行われた市長選挙の際、館山市の将来のためにさまざまな施策を打ち出されました。私もチラシやリーフレットで市長の市政に対する方針を知る機会を得ることができました。それによりますと、「明るく希望に満ちた活力ある館山づくり、発展と調和ある明日のふるさとづくり」、これがスローガンでありました。そして、4本の柱となる施策は、1、「行政の推進と改革」は、これは市民生活を向上させるためにバイパス、生活道路、安全対策、オンブズマン的制度を導入する施策です。2、「自治」は、調和のとれた開発や公害防止に努める施策です。3、「心と体」については、スポーツ振興、文化活動の施策です。4、「産業と経済」については、リゾート開発や観光、産業の施策です。このように市長は基本的な方針を定められておりました。そこで、私は市長に御当選なさった今この機会に、市長さんがどの程度この4本の柱に関して具体的に考えられていたか、そのお考えをぜひお尋ねしたいと思います。

まず、第1の柱の中に出てくるオンブズマン制度導入についてですが、1809年にスウェーデンで誕生し、欧米では2世紀近い歴史を持つ制度を指しているのだと思うのです。国民の代理人として行政への苦情を受け付け、中立、公平な立場から問題を解決し、正していく制度で、形態は多少の違いはありますが、今や世界20数カ国で設置されております。

行政は市民のためにあることは当然であります。しかし、現実にはそれが

満たされず、行政に対する市民の不信感は強いように思われます。今行政に求められているのはきめ細かな市民サービスであり、敏速な対応であります。行政機能が複雑化し、機能も構造的に肥大化し、小回りがきかなくなっているという側面は否定できないと思うのです。行政上の不当行為や苦情、疑惑に関して市民として不服を申し立て、訴えることはできますが、しかし実際はその手続が繁雑であったり時間がかかってしょうがないなど目に見えない障害や制約にぶつかる場合が多く、あきらめているのが実情です。この制度については先ほど来から質問が重なっておりますので、御答弁は簡略で結構です。

次の質問ですが、これは市長さんのおっしゃっている生活環境の整備と相呼応する質問です。環境保全都市宣言についてどのように考えられますかという質問です。環境庁の調べによると、東京湾の水質汚濁の原因の7割近くを何と生活雑排水が占めているとの結果が出ています。公共用水域水質環境基準の達成状況では、カドミウムや水銀などの有害物質については大きく改善されてきているものの、有機物による汚れの指標であるBOD、CODについては近年ほぼ横ばい状態であります。とりわけ水が入れかわりにくい湖沼、内湾、内海などの閉鎖性水域と市内中小河川で環境基準の達成率は低いままのようです。

生活雑排水は、例えば1日当たり排出する汚濁量——BODは43グラムと言われ、そのうちし尿が13グラム、30%と生活雑排水が30グラム、70%であります。し尿については、未処理のままの放出は法律上禁止されているため、し尿よりも生活雑排水の方が水質汚染への影響が大きいことがわかります。同様に、工場などの排水も法的規制を受けているため、野放し状態のまま直接川や海に流れ込んでいる生活雑排水への対応が迫られていると言えます。

最も身近な台所から排出する汚れを見てみますと、食事の後残った食品をそのまま流した場合、魚がすめるようなきれいな水にするためには一体どのくらいの水を必要とするのか。例を見てみますと、牛乳 200ミリリットルを流した場合はふろおけ10杯、おでんの汁 500ミリリットルでは25杯、使用済みのてんぷら油 500ミリリットルとなると、何と 330杯もの水を必要としま

す。何といっても食品をそのまま流すことが水質汚染の一番の要因です。

私も台所から排水する野菜の切りくずなどのごみの量を調査しました。調査方法は、戸外の排水ますにビニール製コップにストッキングをかぶせてつくった測定器を設置して、自宅や民家数軒に10日間お願いしたんですけれども、その結果、1日の平均排水量が流し口の目の粗い目皿では100グラム、目が細かい網では40グラムであることが判明しました。雑排水は平均で1日50グラムとしても、市内2万余の世帯で年間360トンもの汚物が河川から海へと流れ込んでいると思われます。今までどのような対策を立てられていましたかお伺いします。

また、市民の意識を高めるため、基準や要領を定めた環境保全都市宣言をしてはどうかと思いますが、当局の御見解をお聞かせいただきたいと思います。

次に、市民を交通災害から守るパラメディック制度についてですが、今まで当市としてはいろいろな角度から救急医療体制を進めてきております。全国的に見ると、我が国の交通事故の死亡者は平成元年に15年ぶりに1万1,000人を超え、ことしも昨年以上のペースで増加しており、実態は第2次交通戦争時代に突入していると言えます。

こうした中でも、日本の医療は世界最高の水準と言われておりますが、救急医療体制では欧米に大きくおくれをとっています。例えば、西ドイツは医師が事故現場に駆けつけて即治療に当たるシステムを取り入れ、事故死亡者が半減したとの実績を上げています。日本ではようやく厚生省と消防庁がこのほど救命率向上を図るため、国家資格制度として輸血や血圧測定などの医療行為ができる救急医療士を創設することを決めるようです。

仮死状態で病院に搬送された患者の救命率は、アメリカでは20から30%と言われますが、日本における救命率は救急医療体制が比較的整っている東京消防庁管内でさえ3%と極めて低いのです。現在日本のプレホスピタルケアは救急隊員の応急処置や人工呼吸など比較的簡単で短時間のうちに行えるものに限られており、医師の関与はほとんどないという空白状態。仮死状態で病院に搬送された患者のうち、約30%については病院に到着する前に電氣的

徐細動の処置をすれば助かった可能性があるとの報告も出されております。救命率向上にはプレホスピタルケアの早期充実が強く求められております。人命を預かる救急隊員のレベルアップは時代の要請であり、この実情から今後推進していかなければならない大事な施策となるものと思います。そこで、現在の救急医療体制はどのように行われておりますか、御説明をいただきたいと思います。

次に、4番目ですけれども、文化ホールに関しては同僚議員が質問いたしましたので、これは省きます。

次に、市長の掲げている4本目の柱の中にある魅力的なウォーターフロント都市の開発についてですが、総合保養地整備法が施行され3年が過ぎ、全国各地でリゾート開発構想が打ち出され、千葉県も昨年リゾート法に基づく基本構想が国から承認されました。市長はさきの選挙期間中の公約で、リゾート開発は市民のための開発でなければなりません。恵まれた房総の自然は残さなくてはならない。また、ゴルフ場建設については、一つ間違えば自然の乱開発につながるので、検討する余地は十分ですという厳しい表現があったように思います。また、海の活用については、魅力的なウォーターフロント都市、観光の館山を個性的な浜辺の開発と選挙の公約で話されておりますが、もう少し具体的に御説明をお伺いしたいと思います。この質問に関しても先ほど来から種々ありました。御答弁ございましたが、館山市の将来に対しての大事な問題であるので、いま一度御答弁をお願いいたします。

次の質問ですが、これも4本目の柱の中に入ってくる産業の育成につながる問題ですが、インダストリアルパークについてのお考えをお尋ねしたいと思います。これは御承知のように自然を生かした工業団地をつくり、若者の定住化と地域産業の発展を図ろうとするものです。

ここで私が耳にしました新市長に対して期待する市民の声を申し上げたいと思うのです。ある会社員の声としては、若い人が定着できるような雇用の確保を図ってもらいたい。また、主婦の声としては、特に子供たちがふるさとから出ていかないように職場の確保をしてもらいたい。また、自営業をやっている人の声としては、企業誘致を起し、就業の場を確保してもらいた

いなどの声がありました。これらは市民の望むインダストリアルパークを推進してもらいたいという声だと思います。そこで、市長さんはこれらの市民の声に対してどのようにお感じになっているか、御感想をお伺いいたします。

次に御質問したい点は2点ほどあります。これは常日ごろから市民から関心の寄せられている問題です。1つは資産ごとの課税内容がわかる明細書の添付はできないかという質問です。もう一つは水道の未給水地域の館野、九重の問題点についてです。

資産ごとの課税内容がわかる明細書の添付についてですが、来年は3年ごとの固定資産税の評価がえが行われる。この評価がえは1986年7月から1989年7月までの地価上昇率をもとに算定されることになっておりますが、この間における全国の地価は著しく高騰している。この地価上昇率をそのまま固定資産税に反映させるならば、過大な負担となり、住民や中小零細業者の暮らしや営業を圧迫することは明らかであります。館山市はなぜこんなに税金が高いのかと多くの納税者が抱いているこんな疑問にも答えるため、固定資産税第1期納期分から納税通知書に課税明細書を添付するのはいかがなものか。この明細書は、市民が家屋や土地など固定資産を所有した際に登記した台帳に基づいて資産ごとの課税内容を明らかにするものであります。従来の方法では、固定資産全部をひっくり回して幾らといったぐあいに税額が知らされてきました。これでは資産ごとの課税が明瞭でなく、納める方としてはとても納得いかないとの声を耳にします。来年の第1期納税分から課税明細書を添付する考えはございますか、御見解をお伺いします。

最後ですけれども、次に水道の未給水地域の館野、九重の問題点についてですが、6月議会でも質問いたしましたが、第1回目の検査結果では約75%不適であります。また、水質が悪い原因は、検査の結果から見て、地形、地質あるいは周囲の環境による影響だろうとのことでした。また、色度の検査結果については、土壤中の有機物、濁度が高いのは土の混入が考えられる。大腸菌は、浅い井戸であるため、雨水の流入による汚染が主な原因であるとの答弁でありました。また、6月から7月にかけて再度水質検査を行って総合的に検査、分析する予定とのことでした。さらに、浄水方法についての指

針を作成して地域住民に示すとのことでしたが、どのような検査結果だったのか、住民にはどのように説明をしたのでしょうか、お尋ねをいたします。

以上、御質問申し上げました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） 脇田議員の御質問にお答えいたします。

第1点目の市民のためのオンブズマン制度についてでございますが、先ほど神田議員にお答えしたとおりでございます。今後市民の声を反映して明るい行政を推進するために検討してまいりたいと存じます。

第2点目の公害のない生活環境の整備についての御質問でございますが、今まで行ってきた家庭雑排水対策といたしましては、市民への浄化に対する意識の高揚、啓発を図るため、各戸への啓発用チラシの配布や、家庭でできる浄化対策として、モデル地区を定めて三角コーナー、水切りごみ袋の試供品の配布及び説明会の実施、さらには家庭用小型合併処理浄化槽の設置に対し補助制度を導入するとともに、浄化槽の適正な維持管理の指導に努めております。また、河川直接浄化といたしましては、人工芝、れき間浄化施設の設置、相浜排水路浄化施設、三軒町生活排水処理施設の建設により汚濁負荷の軽減を図っております。

次に、環境保全都市宣言についての御質問でございますが、昭和62年度から実施しておりますクリーン・アンド・ビューティフル運動との整合性を図りながら、先進地の事例等を参考にしていまいりたいと考えております。

第3点目の市民を交通災害から守る対策はどのように推進されてきたのかという御質問でございますが、市の救急医療体制は安房郡市広域市町村圏事務組合の共同処理事務として同組合消防本部で行っております。本市内では館山消防署及び西岬分遣所に各1台の救急車及び救急隊員6名が配備されており、119番通報等による救急要請に迅速に対応できる体制が整備されております。

第5点目のリゾート開発についての御質問でございますが、現在本市で推

進しておりますリゾート開発計画は、恵まれた自然環境を基調とし、市民も来訪者もみんなが楽しめるウエルネス ― すなわち心と体の健康をテーマとした海洋性リゾートタウンのまちづくりを目指しているものでございます。これは人間が人間らしく生きるために、地域文化の継承と発展を図るために、地域経済を活性化するために、守るべき自然は守り、生かすべき自然は活用し、個性豊かな館山らしいまちづくりを行政と市民が共同し、民間活力を導入して進めていくものでございます。したがって、市民あってのリゾート開発であると同時に、館山のすばらしい自然環境との調和を図るため、国、県との連携を図り、市民の意見を十分に反映して適正に企業を指導してまいりたいと考えております。

第6点目のインダストリアルパークについての御質問でございますが、雇用、就業の場を確保し、若者の定着化と地場産業の活性化を図ることは重要な課題であると考えております。そのために、本市の魅力であります恵まれた自然を生かした林間工業団地としてインダストリアルパークを実現するために積極的に推進してまいりたいと考えております。

なお、今年度基本計画を県や関係地区住民とともに作成しているところでございます。皆様方の絶大なる御支援をお願いしたいと存じます。

第7点目の固定資産税の課税明細書の添付はできないかとの御質問でございますが、これは実施の方向で前向きに検討してまいりたいと存じます。

第8点目の館野、九重地区の飲料水の検査結果及び浄水方法の指針についての御質問でございますが、先ほど田沢議員にお答えいたしました、説明会の日程調整がつき次第地区に伺い、今後の上水道の拡張計画とあわせて御説明いたしたいと考えております。

以上、答弁終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 市長さんも最初の議会で多分お疲れだと思いますので、簡単に二、三再質問させていただきたいと思います。中には重複しまして ― 皆さんと、各議員と重複しましたから、重複しない点を何点かお伺いします。

オンブズマンの制度については、今の市民の声を反映させていくという——これからやはり勉強していただきたいと思います。この点についても、確かに世界各国、20数カ国という数字はありますが、日本においては川崎市のみでありますけれども、やはりこれに近いような、だれもが行政に対して素直に意見を述べられるような制度をひとつよろしくお願いしたいと思います。

環境の問題ですけれども、これ実は私も自宅でどの程度の——要するに流しから出る量ということで先ほど本論でも述べましたんですけれども、はかってみました。そのストッキングではかった量は、約1日置いたときにすごく量が出たわけです。それで、すごく私も河川に流れ込む汚物というのは大変だなということで、先ほどの答弁の中に61年度——要するに三角コーナーとか水切りを61年度から実施しているようであります。私も話を聞くんですけれども、その実施したところの——毎年度実施しまして、その次の年度は違う地域を選んで行っているようでありますけれども、61年度は北条、62年度は船形、富崎、63年が那古、館山、神戸、元年度は北条、西岬、平成2年度は豊房、館野、九重、このような地域で行っております。ですけれども、確かに行われるということはいいいことなんですけれども、この後の問題が——例えば一般家庭の人たちがああいいな、確かに汚濁がとれる。だけれども、その後の要するに啓蒙啓発——行っではいると思いますけれども、皆さんがそこへテストをされた家庭がその後どの程度自主的に使用されているのか、その点わかりでしたらひとつお願いしたいんですけれども。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 三角コーナー、ろ紙等のアフターケアの問題でございますが、まず冒頭、脇田議員さんが自らそういう形で浄化に取り組んでおられる。敬意を表したいと思います。ありがとうございます。

この件につきましては、昭和61年から御指摘のとおりモデル地区をつくりまして実施しているわけでございますが、アフターケアにつきましては昭和61年に実施してございます。これは三角コーナー等がどれぐらい効率があつたかということと、これから実施してもらえるかという点に重点を置まし

て調査したわけですが、これによりますと大体80%が今後も実施するということでございました。このことを考えますと、その後の調査いたしてございませんけれども、購入した人はその後も — いわゆる市販のものがあるわけですから、そういうところから購入してやっているんじゃないかというふうなことが考えられます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安寿君。

◎1番（脇田安寿君） 今の答弁で80%が「したい」ということであるわけです。私ちょっとお聞きしたいのは、この要するに実施したところ — 大変でしょうけれども、アンケートなり、「実際に私は使っていますよ」、そういう数値はわかりますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そういう — その後のアンケートによって確認はいたしてございません。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安寿君。

◎1番（脇田安寿君） はい、わかりました。大変でしょうけれども — ということは、全部の地域を私はそのアンケート調査するんじゃなくて、一部分でも — 半分でも3分の1でもよろしいかと思うんですけれども、そうしますと、実際に市からいただいてテストしたときにはよかったんだ。けれども、その後期間が過ぎて自前でしているのは — その辺の浄化対策の各戸のやっぱり意欲だと思しますので、ですからできたならばどこかの地区を抽出されて、一遍その後の使用状況等を調べていただきたいと思いますので、この点は要望にしておきます。

それと、これに関連というんですか、してくると思うんですけれども、河川の浄化ということで、せんだって9月でしたか、私の地元ですけれども、平群川の支流で滝川という川がございますけれども、ここで — あそこの流域は昔から川釣りのメッカです。ですから — それで、そこへ要するに大量の川魚が浮いたというのを新聞で御存じだと思いますけれども、実は私もお聞きしたときには、そこは今までそんなこと一度もなかったんだ。あそこの

川は本当にきれいでしたから、私の小さいころはよくあそこで水泳もできたようなところでしたんで、今考えると、魚が浮くということは何か水質あるいは環境の変化でこのような結果になったんじゃないかと思うんですけども、新聞によりますとその場で——館山の保健所で水質あるいは魚を採取して行って検査をするということでしたけれども、その結果がやはりよくわからない部分がたくさんありますので、わかりましたらこの点ひとつお願いしたいんですけども。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御指摘の平成2年9月の18日に滝川で魚の異常死があったわけでございます。これにつきましては、当日も館山保健所の方も参りましていろいろ調べたわけでございますけれども、正式には保健所から異常死魚と河川の分析、そういうものを県の方に——衛生研究所の方に上げまして、その結果が先日保健所の方から参りました。その結果によりますと、異常死魚の病理検査、化学検査を実施したが、原因不明の結果となっております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 原因不明ということは——この検査の結果から不明といいますと、毒物ではないということはもう考えられるんですけども、毒物によるそういう魚の死じゃなかったという結果、それはもういいことだと思いますけれども、結果が出ないということは2つ考えられるんです。1つは窒息死というんですか、酸欠の場合で起こる原因があるわけです。それと、あと河川の雑排水等で、環境変化であると思うんです。結果が出せないということはどちらが原因なのかわかりませんが、やはり前回——その後この川でコイの放流を行ったんです、大量死があった後に。すると、そこに出席した小学校の子供さんたちは、また放流しても死ぬんじゃないかというような危機感というか、危惧があった、そういう話をもう聞きました。ですから、やはり検査結果がこうでしたけれども、いや大丈夫だよというようなことが必要じゃないかなと思います。

次に移ります。救急医療体制のパラメディック制度ですけれども、これは国がこの制度を取り入れていくことになるんですが、その制度を取り入れまして、やはり安房広域圏の消防体制の中でそれをどのようにして即制度化していくのか、あるいは広域圏ですけれども、これを検討するのか、その辺を聞きたいと思うんです。ということは、やはりこれは救命率ということで生命にかかわることですから、ですからこういう国が制度化されたんだということに対して——今国会でも論議されておりますけれども、制度化になりつつあるわけです。ということは、実際制度になったから、それから検討するのか、あるいは国もこういうふうな制度を進めるに当たって、我が広域圏の中で、じゃ国も進んでいるんだから我々もひとつ議論しようじゃないかというところは出ておるんですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この救命率の向上といいますか、それに対応する問題でございますけれども、いわゆる救急車が到着前の空白の6分間、この解消をどうするかということで、御指摘のとおり現在国でも厚生省、また自治省、消防庁それぞれ対応しているわけでございます。そういう中で、館山市におきましても——この救急関係は広域圏でやっているわけでございます。そこらと現在でも緊急に、緊密にコミュニケーションをとっているところでございますけれども、今後も一層な協力といいますか、協議といいますか、そういうことをしていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） ぜひとも前向きにこの点は検討されまして、生命の問題ですからひとつよろしく願います。

関連しまして1点だけお願いしたいんですけれども、せんだっての市民意識調査の中で9番目の項目がございます。この中に特に段トツに出ていたのが——近所の道路の安全ということについて、館野地区は71.3%との数字があったわけです。この点に関してほかの地区を見てみますと、60%前半、あとは50%が各地区でしたけれども、70を超えていたのが館野だけでしたので

ちょっと私の目に触れたんですけれども、ということは——前回私もこの議会で質問したのが館野を縦断している国道128号線の歩道に対してなかなか整備が進まないということありまして、歩道がない。一部分歩道もなければ排水もない国道がございます。そういうことがあるので、交通安全に対しておくられているということを館野の地元の方が指摘されたのかな、そういうふうに私は自分で感じたんですけれども、前回質問しました128号の歩道の進捗状況について、その1点のみお願いします。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 国道128号線の交通事故対策ということでございます。これは御指摘のとおり平成元年度の3月議会で脇田議員さんが御質問になっているところでございますが、この進捗状況でございます。いわゆる館野地区の歩道の整備でございますが、館山土木事務所に検討を依頼いたしましたところ、実現に向けまして、地元の御理解、御協力を得られれば説明会を開催し、路線測量を実施したいということでございます。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） あと何点かひとつよろしくお願いします。

次に、地元の問題でもう一点、インダストリアルパークのことについて伺っておきたいと思います。これはやはり広大な土地を工業団地にしていくという構想でありますけれども、市長さんは先ほど積極的に推進していくんだという御答弁をいただきまして、本当にこの工業団地を進めていただきたいなと思っております。

それで、1点のみ、この企業誘致に対して——今はまだそこまでいかない段階とは思いますが、この自然を残していくということですが、工業団地の中で、公園のような工業団地にしたいというような話ですが、その公園とは具体的に現在ある立ち木をそのまま残すのか、あるいは新たに移植して本当の要するに公園というか——いろんな公園がありますが、その公園はどのようなもののようにつくっていくのか、その点をお願いしたいんですけれども。

◎議長（渡辺昭夫君） 経済部長。

◎経済部長（安西良一君） この点につきましては、まずこれから実際には計画を立てるわけでございますが、考え方といたしましては、自然林をできるだけ残す。その上に立って工場を配置し、必要なところには植栽をしていくというような形になるかと思います。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） これはこれから事業が進んでいくと思いますので、またそのときに質問させていただきたいと思います。

次に、固定資産税の明細書の添付ですけれども、これは前向きに検討することとありますので、ぜひとも来年の5月の第1期分から明細書を添付することをさらに要望しまして、終わります。

次に、水質検査の件ですけれども、これは先ほど神田議員と田沢議員から事細かく出ましたので、これは省きます。

それと、関連しまして南部の地域総合水利計画について若干お願いしたいと思うんですけれども、ということは、ことしでしたか、利根川水系のダムが渇水状態になりました。この地域——要するに安房と夷隅の水源も利根川の水系を利用するわけですけれども、それに対してこのような状況下のときにはここの地域として、この対策としてどのようなことを考えておりますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） お答えいたします。

利根川の渇水についての御質問ですが、この水を使って安房、夷隅に持ってくるわけでございます。新聞等では利根水系の渇水ということで大変一時この夏騒がれたわけでございます。渇水時の対応ということで、今建設省及び関係省庁、1都5県で構成されております連絡調整協議会というものが設けられております。この決定を受けて取水制限が実施されるわけでございますが、利根水系を利用する長柄ダムからの取水制限はございますけれども、仮称夷隅ダムからの取水制限は受けないというように聞いております。それと、利根川水系とその南部地域は必ずしも渇水時期が一致しないということ

でございます。それから、夷隅、安房郡市の14水道事業体はダム等で自己水源を現在も保有してございます。それを有効に活用できるということと、それから14水道事業体が管路で連絡されて一時期に給水割合の変更も可能であるというような、こういった理由から従来以上に安定給水ができるんじゃないだろうか、このように渇水のときは考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 脇田安保君。

◎1番（脇田安保君） 最後ですけれども、南房総の企業団の事業計画のことですが、長柄ダムから白浜まで配水管で引いてくるんですけれども、この工事が実質4年間という計画で施行されるわけです。特に、夏場などの道路の交通対策等について特別な配慮が必要と思うんですけれども、といいますのは、館野、九重においては、これは一日も早くやはり水道の通水ということとはもう言われているわけです。といいますのは、この工事等おくれた場合には、やはり平成7年の4月ということはずれ込むんじゃないかと思っておりますけれども、この点についてどのように考えておりますか。

◎議長（渡辺昭夫君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 南まで持ってくる導水の関係でございますが、まず管路延長が――4年間で整備する場合に毎年発注工区数を60ないし70区画程度を発注すると聞いております。したがって、御指摘の工事期間の夏季帰省あるいは年末年始の帰省だとか、道路上の支障が予想されるわけでございますが、その対応、対策といたしましては、発注方法及び施工方法等を工夫するほか、道路管理者でございます県、国、それから警察等の関係機関の協力を得なければならないことでございます。こういった関係機関と十分調整を図る。また、市といたしましても地域の住民の方々の御理解と御協力を得よう努力してまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎1番（脇田安保君） 終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で1番議員脇田安保君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

会議日程の変更

◎議長（渡辺昭夫君） この際、会議日程についてお諮りいたします。

明18日の会議日程は本日に引き続き行政一般質問となっておりますが、本日終了いたしましたので、明18日は休会にいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（渡辺昭夫君） 御異議なしと認めます。よって、明18日の会議日程は変更され、休会と決しました。

散 会 午後3時56分

◎議長（渡辺昭夫君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明18日は休会、次会は12月19日午前10時開会とし、その議事は議案の審議を行います。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問